

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 28 年度 定時社員総会

資料

日 時 平成 28 年 5 月 23 日（月） 15 時 30 分～16 時 30 分
場 所 千葉幕張メッセ国際会議場 コンベンションホール B
(〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1)

目的事項

報告事項

- (1) 平成 27 年度（公益社団法人第 5 期）事業報告の件
- (2) 平成 28 年度（公益社団法人第 6 期）事業計画書及び収支予算書等の件
- (3) 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告
- (4) 法人運営基本規則第 10 条 2（再入会時の未納会費について）変更の検討状況報告
- (5) その他

決議事項

- (1) 第 1 号議案 平成 27 年度（公益社団法人第 5 期）決算承認の件
- (2) 第 2 号議案 役員（理事、監事）選任の件
- (3) 第 3 号議案 熊本・大分地震災害に関する声明

資料	1. 平成 27 年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1～37
	2. 平成 28 年度事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 38～51
	3. 平成 28 年度収支予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 52～53
	4. 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告・・P. 54～56
	5. 法人運営基本規則第 10 条 2 変更の検討状況報告・・・・・・・・P. 57
	6. 平成 27 年度決算報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
	1) 貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
	2) 正味財産増減計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
	3) 正味財産増減計算書内訳表・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
	4) 財務諸表に対する注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 61～62
	5) 附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 62
	6) 財産目録・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 63
	7) 監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 64～66
	7. 役員候補者推薦委員会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 67
	役員候補者推薦委員会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 68～69
	理事候補者選挙 投票結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 70
	理事候補者推薦一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 71～72

平成 27 年度 事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

電話：03-6914-2080

Fax：03-6914-2088

平成 27 年度 事 業 報 告

公益社団法人第 5 期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の通りである。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

- （1）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催 [定款第 5 条（1）]
- （2）国際セッション・シンポジウム「JpGU International Session 2015」の開催 [定款第 5 条（1）]
- （3）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第 5 条（1）、（2）]
- （4）一般公開講演会の開催 [定款第 5 条（2）]
- （5）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示 [定款第 5 条（2）]
- （6）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布 [定款第 5 条（7）]

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

- （1）学術雑誌等の出版の高度化 [定款第 5 条（2）]
- （2）加盟学協会による学術誌等の出版推進 [定款第 5 条（2）]
- （3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行 [定款第 5 条（2）]
- （4）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第 5 条（2）]

3. 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応

- （1）学協会長会議の開催 [定款第 5 条（3）]
- （2）地球惑星科学コミュニティの意見集約 [定款第 5 条（3）（6）]

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

- （1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力 [定款第 5 条（4）]
- （2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援 [定款第 5 条（2）]

5. 地球惑星科学知見の社会還元

- （1）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信 [定款第 5 条（5）]
- （2）複合的自然災害リテラシーの普及 [定款第 5 条（5）]

6. 委員会等活動

- （1）セクション・サイエンスボード活動 [定款第 5 条（3）（6）]
- （2）顕彰制度 [定款第 5 条（1）（2）]
- （3）各種委員会活動 [定款第 5 条（1）～（7）]

以下に、個別の事業の状況について述べる。

I. 事業の状況

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

（1）日本地球惑星科学連合 2015 年大会（連合大会）の開催

日本地球惑星科学連合 2015 年大会（Japan Geoscience Union Meeting 2015）

会 期：2015 年 5 月 24 日（日）～28 日（木）5 日間

会場：幕張メッセ国際会議場、アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張

主催：日本地球惑星科学連合

後援：46 団体

協賛：日本サンゴ礁学会、日本高圧力学会、日本天文学会、地震工学会、土木学会、地盤工学会、地すべり学会、砂防学会

開催セッション数：189

（参考：過去開催セッション数、2014 年 193、2013 年 180、2012 年 174、2011 年 174）

セッションカテゴリー	開催数	(*国際)
U: ユニオン	7	(*2)
O: パブリック	5	(*0)
P: 宇宙惑星科学	23	(*12)
A: 大気水圏科学	22	(*9)
H: 地球人間圏科学	24	(*8)
S: 固体地球科学	62	(*16)
B: 地球生命科学	10	(*2)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 学際・広領域	31	(*5)
計	189	(*55)

（過去国際セッション数：2014 年 43、2013 年 42、2012 年 42、2011 年 41）

【2015 年大会投稿数】

・発表論文数：4037 件（2014 年 3806 件、2013 年 3980 件、2012 年 3876 件）

口頭発表 2545 件（2014 年 2428 件、2013 年 2226 件、2012 年 1975 件）

ポスター 1492 件（2014 年 1378 件、2013 年 1754 件、2012 年 1901 件）

※ポスターは高校生セッションの 77 件を含む

■参加者数

参加者数：6689名（2014年7046名、2013年6824名、2012年7318名）

- ・事前参加登録者数：4106名

全日程 3437 1日券 669

一般 2820、小中高教員 35、大学院生 1074、シニア 75、学部生 91、高校生 11

- ・当日参加登録者数：1165名

全日程 582 1日券 583

一般 507、小中高教員 8、大学院生 144、シニア 56、学部生 434、高校生 16

- ・同伴者 26名

- ・総合案内来場者数：1392名

一般 203名、小中高教員 33名、大学院生 4名、シニア 4名、学部生以下 227名、
高校生発表 177名、ジオパーク 121名、プレス 84名、会合参加者 96名、
出展関係者 355名、中学生アウトリーチイベント参加者 88名

■出展関係

- ・団体展示：65ブース（2014年80、2013年63、2012年43）

※2014年は大学インフォメーションパネルを含む数

- ・大学インフォメーションパネル：11ブース（2013年11、2012年13）

- ・書籍・関連商品：26ブース（2014年27、2013年25、2012年29）

- ・パンフレットデスク：7ブース（2014年7、2013年10、2012年8）

- ・学協会エリア 個別デスク：10ブース（2014年10、2013年9、2012年10）

■その他

- ・会期中開催会合数：95（学協会総会等関連：45、連合関連：18、一般：32）

- ・アルバイト：のべ355名

（2）国際セッション・シンポジウム「JpGU International Session 2015」の開催

連合大会の国際化を推進するために、連合大会において英語を発表言語とするセッションを55件開催し、これを国際セッション・国際シンポジウムとして位置づけた。

（3）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。

開催日：2015年5月24日（日）

場 所：幕張メッセ国際会議場

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合 広報普及委員会

責任者 原 辰彦（独立行政法人建築研究所、広報普及委員会副委員長）

後 援：千葉県教育委員会、千葉市教育委員会

発表数：77 件

参加者数：177 名

参加高校：43 校

愛知県立一宮高等学校、茨城県立日立第一高等学校、県立浦和高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府立堺東高等学校、大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程、岡山県立津山高等学校、海城中学高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、京都府立洛東高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立太田女子高等学校、慶應義塾高等学校、慶應義塾志木高等学校、栄東高等学校、佐野日本大学高等学校、埼玉県立所沢高等学校、滋賀県立米原高等学校、湘南白百合学園高等学校、静岡県立磐田南高等学校、島根県立吉賀高等学校、滝高等学校、千葉県立長生高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京都立戸山高等学校、東京都立立川高等学校、長野県屋代高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、奈良県立青翔高等学校、東筑紫学園高等学校、兵庫県立加古川東高等学校、兵庫県立西脇高等学校、兵庫県立豊岡高等学校、福井県立藤島高等学校、福島県立磐城高等学校、北海道札幌開成高等学校、私立本郷高校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、山梨県立吉田高等学校、山梨県立日川高等学校、横浜国立横浜サイエンスフロンティア高等学校

表彰発表：

・最優秀賞（1 件）

海城中学高等学校 『新宿区立おとめ山公園周辺の地下水の変動把握および涵養域の推定』

・優秀賞（3 件）

静岡県立磐田南高等学校『磐田市遠州灘鮫島海岸で発見されたガーネットサンドに含まれる磁鉄鉱の起源』

海城中学高等学校『エアロゾルが夜空の明るさに及ぼす影響』

兵庫県立加古川東高等学校『加古川市域の流紋岩に見られる円構造の成因』

・奨励賞（12 件）

兵庫県立西脇高等学校 『兵庫県南部地震の余震による地盤変動と宅地整備の提言

東京学芸大学附属高等学校 『破片化したヤスリツノガイ化石の体サイズ復元

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 『館山湾から産出した有孔虫化石による海洋環境の考察』

奈良県立青翔高等学校 『2つの系外惑星のトランジット観測』

群馬県立前橋女子高等学校 『暗順応による星空の見え方の変化』

埼玉県立所沢高等学校 『霜柱の成長に関する実験的研究』

静岡県立磐田南高等学校 『静岡県太田川低地における歴史地震による津波遡上範囲の推定』

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 『Is it really aurora ? ～宮崎で観測された光の謎を解く～』

滝高等学校 『視程と大気汚染物質の関係』

東筑紫学園高等学校 『夜空の明るさについて 2002～2015』

岡山県立津山高等学校 『津山周辺における新第三紀海成層の研究』

海城中学高等学校 『裸眼及び SQM による夜空の明るさ観測の比較』

(4) 一般公開講演会の開催

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般講演会を開催した。4～5 月の連合大会においてパブリックセッション「地球惑星科学トップセミナー」を開催するとともに、8 月には「高校生のための夏休み講座 2015」を開催した。

1. ジオパークへ行こう

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 9 講演が行われた。参加者数約 250 名。

2. 地球惑星科学トップセミナー

5 月 24 日（日）9:45～11:30 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 3 講演が行われた。参加者数約 190 人

3. 高校生によるポスター発表

5 月 24 日（日）11:30～12:30 幕張メッセ国際会議場国際会議室にて 77 件の発表が行われた。

4. 研究者の多様なキャリア形成を考える

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場 101 号室 A にて 3 講演および総合討論が行われた。参加者数約 50 名。

5. Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える

5 月 24 日（日）14:15～18:00 幕張メッセ国際会議場 104 号室にて 6 講演および総合討論が行われた。参加者数約 45 名。

6. 高校生のための夏休み講座 2015

8 月 19 日（水）13:00～16:00 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて 2 講演が行われた。

講師 成田憲保 （国立天文台） 「望遠鏡で探る太陽系外惑星の空」

講師 東塚知己 （東京大学） 「異常気象を引き起こす気候変動現象」

(5) スペシャルレクチャーの開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催した

5月24日（日）沖 大幹（東京大学生産技術研究所）

「人間—地球系のグローバルな水循環研究」

5月25日（月）David Rubie（University of Bayreuth）

「Accretion and Early Differentiation of the Terrestrial Planets」

5月27日（水）鈴木 淳（産業技術総合研究所）

「サンゴ、サンゴ礁と地球環境—生物学と地球科学の連携研究—」

5月28日（木）片岡龍峰（国立極地研究所）

「オーロラ研究の新展開」

（6）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

団体展示：65ブース（2014年80、2013年63、2012年43、2011年44）

大学インフォメーションパネル：11ブース（2013年11、2012年13、2011年11、2010年10）

（7）地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布

毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

書籍出版（関連商品）：26ブース（2014年27、2013年25、2012年29）

パンフレットデスク：7ブース（2014年7、2013年10、2012年8）

学協会エリア 個別デスク：10ブース（2014年10、2013年9、2012年10）

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

（1）学術雑誌等の出版の高度化

国際情報発信力強化を目的に、日本学術振興会から科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を受け 2014 年 4 月に出版を開始した連合の新規オープン・アクセス（OA）電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」の編集・出版事業を、ジャーナル出版委員会とジャーナル出版事務局の協働により行った。

優れた論文の投稿を促進する施策として、①地球惑星科学の知識などを整理したレビュー（総論）のための国際シンポジウムのサポート、②注目のテーマの論文投稿を呼びかける SPEPS (SPecial call for Excellent Papers on hot topicS) の推進、③2015 年連合大会発表の中からコンビーナー推薦の優秀発表への投稿依頼等を行った。また、出版論文の閲覧・引用を促すために、専用ホームページや SNS、MyJpGU を活用して積極的に出版論文の紹介を行った。さらに、新ジャーナルを広く周知するために、AGU、EGU、INQUA、AOGS などの国際会議へのブース出展、連合大会始め加盟学会主催の国内学会などにおいても広報活動に取り組んだ。この結果、JST や

Directory of Open Access Journals (DOAJ)等の文献データベースへ収録された。12月末までの投稿論文数 58 本、出版論文数 40 本（H26 年度同時期投稿論文数 40 本、出版論文数 25 本）と昨年度に比べ順調に増加している。

また、他誌との連携について協議を開始するとともに、EPS 誌と共同で特集号の製本化やジャーナルの PR を行った。

（２）加盟学協会による学術誌等の出版推進

海外で開催された国際学術大会で連合ブースを出展し、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を行った。

（３）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く社会一般に広報し、普及させることを目的とするアウトリーチ誌「JGL」を昨年同様に年間４号定期発行した。ニュースレター（JGL）の発行日、部数は以下のとおりである。

発行日	No.	発行部数
平成 27 年 ５月 1 日	Vol. 10 No. 2	29,000 部
平成 27 年 ８月 1 日	Vol. 10 No. 3	26,000 部
平成 27 年 11 月 1 日	Vol. 10 No. 4	26,000 部
平成 28 年 ２月 1 日	Vol. 11 No. 1	26,000 部

（４）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等を配信した。今期は、基幹となるウェブシステムを新たに整備するとともに、毎月、定期的にメールニュースを発刊した。

発行日	No.	種類
2015 年 1 月 8 日	No. 221	臨時号
2015 年 1 月 13 日	No. 222	定期 1 月号
2015 年 1 月 30 日	No. 223	臨時号
2015 年 2 月 10 日	No. 224	定期 2 月号
2015 年 2 月 12 日	No. 225	臨時号
2015 年 2 月 17 日	No. 226	臨時号
2015 年 3 月 10 日	No. 227	定期 3 月号
2015 年 3 月 12 日	No. 228	臨時号
2015 年 4 月 1 日	No. 229	臨時号
2015 年 4 月 7 日	No. 230	臨時号
2015 年 4 月 10 日	No. 231	定期 4 月号
2015 年 4 月 24 日	No. 232	臨時号
2015 年 5 月 11 日	No. 233	定期 5 月号
2015 年 5 月 14 日	No. 234	臨時号
2015 年 6 月 10 日	No. 237	定期 6 月号

2015 年 7 月 8 日	No. 238	臨時号
2015 年 7 月 10 日	No. 239	定期 7 月号
2015 年 8 月 10 日	No. 240	定期 8 月号
2015 年 8 月 25 日	No. 241	臨時号
2015 年 9 月 1 日	No. 242	臨時号
2015 年 9 月 7 日	No. 243	臨時号
2015 年 9 月 10 日	No. 244	定期 9 月号
2015 年 9 月 14 日	No. 245	臨時号
2015 年 9 月 18 日	No. 246	臨時号
2015 年 9 月 29 日	No. 247	臨時号
2015 年 10 月 2 日	No. 248	臨時号
2015 年 10 月 13 日	No. 249	定期 10 月
2015 年 10 月 20 日	No. 250	臨時号
2015 年 10 月 27 日	No. 251	臨時号
2015 年 11 月 2 日	No. 252	臨時号
2015 年 11 月 10 日	No. 253	定期 11 月
2015 年 11 月 18 日	No. 254	臨時号
2015 年 11 月 24 日	No. 255	臨時号
2015 年 12 月 10 日	No. 256	定期 12 月
2015 年 12 月 14 日	No. 257	臨時号
2016 年 1 月 7 日	No. 258	臨時号
2016 年 1 月 12 日	No. 259	1 月号
2016 年 1 月 14 日	No. 260	臨時号
2016 年 1 月 25 日	No. 261	臨時号
2016 年 2 月 3 日	No. 262	臨時号
2016 年 2 月 10 日	No. 263	2 月号
2016 年 2 月 17 日	No. 264	臨時号
2016 年 2 月 18 日	No. 265	臨時号
2016 年 3 月 10 日	No. 266	3 月号

3. 国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行なった。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に 2 回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行なった。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行なった。

第 12 回学協会長会議

期日：2015 年 5 月 27 日（水）13：00～14：00

場所：幕張メッセ国際会議場 302 号室

第 13 回学協会長会議

期日：2015 年 10 月 8 日（木）15：00～17：00

場所：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

（〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1）

（2）地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行なった。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへの周知をサポートした。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催した。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日 時：連合大会 会期中

主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合大学及び大学院教育小委員会

内 容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換を行う。

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

（1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパの EGU、米国の AGU、アジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。EGU、AOGS とは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設けた。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示を実施した。

・AOGS Annual Meeting 2015 ブース出展

日程：2015 年 8 月 2～7 日

会場：シンガポール

・AGU Fall Meeting 2015 ブース出展

日程：2015 年 12 月 14 日～18 日

会場：サンフランシスコ、アメリカ合衆国

・12 月 14 日（月）、NASA および JAXA 担当者との会合を行った。

・12 月 17 日（木）、AGU 執行部との会合を行い、2017 大会共催に関する MOU にサインを交換した。

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

1) 国際地学オリンピック活動支援

国際地学オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の地学オリンピック事業に関連する支援と活動を積極的に進めた。

- ・9月13日から20日までブラジルのポソス・デ・カルダスで第9回国際地学オリンピック・ブラジル大会が開催された。日本は金メダル1、銀メダル2、銅メダル2の成績であった。

- ・3月13日から15日につくば市で開催される第8回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、本活動への支援の強化を行った。

- ・2016年8月20日から27日に開催される第10回国際地学オリンピック日本大会（三重）の準備を進めた。

2) 国際地理オリンピック活動支援

- ・2015年度は、国際地理学連合（IGU）の国際会議に合わせて8月11日から8月17日にかけて、モスクワ近郊のトヴェリ（ロシア）及びその周辺で第12回国際地理オリンピックが開催された。日本の成績は、銀3、銅1であった。

- ・2016年度は8月16日から8月22日にかけて、北京（中国）及びその周辺にて第13回国際地理オリンピックが開催される予定であり、国内選抜が1月9日（第1次選抜）、2月21日（第2次選抜）、3月13日（第3次選抜）に行われた。

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、科学的提言を発信した。

2016年1月9日に開催された日本学術会議主催の学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」において、日本地球惑星科学連合のこれまでの取組みを紹介した。

6. セクションサイエンスボード、及び委員会等活動

(1) サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を、一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織し、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

■宇宙惑星科学セクション

- ・2014年5月26日（火）19時～20時の間、幕張メッセ国際会議場の203号室で開催ボードミーティングを開催した。セクションボードメンバーは選挙で選ばれた代議員15名を含む25名である。

- ・連合大会では、地球惑星科学トップセミナーの講演者として、コロラド大学のDaniel N. Baker氏を招聘した。

- ・昨年度の連合大会から他セッションに並び学生優秀発表賞表彰に参加した。
- 140 件をこえる審査対象から最終的に 14 件を選んだ。審査の過程では、80 名の会員に審査員として協力していただいた。平成 28 年度も継続して学生賞表彰に参加する。
- ・2016 年大会に向けて国際セッションを維持拡大する努力をするとともに、
「International Collaboration in Space and Planetary Sciences: 宇宙惑星科学における国際協力」というセッションをセッションボード提案という形で行った。JAXA 宇宙科学研究所長の常田氏や国立天文台 ALMA 観測所長の長谷川氏に、大型計画についての話をいただくとともに、規模の小さな計画、地上観測、個人ベースの国際協力についての議論も行われた。アメリカ NASA-JPL の Brent Sherwood 博士を JPGU 予算で招聘し、このセッションでエンセラダスなど新規計画においての国際協力について講演いただいた。

■大気水圏科学セッション

1) 連合大会に関する活動

- ・2015 年度連合大会において NASA と連携したユニオンセッション「**Science Landscape of Japan with NASA Space Missions**」を共同で開催し、招聘講演者に旅費を支給した。
- ・2015 年度連合大会においてセッションボードメンバー及び代議員を招集しセッションボードミーティングを開催した。また、学生優秀発表の審査、高校生セッションの審査、一般・報道向けのハイライト論文の選出を行った。
- ・2016 年度連合大会に向けて AGU とのジョイントセッション提案の調整を行い、また、プログラム案の作成を行った。

2) 大気水圏科学分野に関係する研究集会の支援

- ・日本気象学会が主催する研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」を共催した（名古屋、2015 年 9 月 1-2 日）。
- ・日本学術会議の環境学・地球惑星科学両委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS（IWD）合同分科会が主催した公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国における IGBP25 年間の歩み」を共同で後援した（東京、2015 年 11 月 15 日）。
- ・MAHASRI 国際科学委員会が主催した国際会議「モンスーンアジア水文気候研究計画(MAHASRI) 国際科学会議(The International Science Conference on MAHASRI)」をセッションとして協賛し、会議開催にかかる費用の一部を援助した（東京、2016 年 3 月 2-4 日）。

3) 地球観測の将来計画に関する提言

- ・今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会(TF)」コミュニティ（以下、TF）の地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加して、「我が国の地球観測の将来計画に関する提言」の作成に携わった。

■地球人間圏科学セッション

- ・2015 年 5 月 27 日（水）幕張メッセ 101A 室にてボードミーティングを開催した。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰を実施した。

- ・ 連合大会におけるユニオンセッション、特に「Future Earth -持続可能な地球へ向けた統合的研究」(U-05)に積極的に関わった。また一般公開セッション 0-05「Future Earth と地惑教育」にも関わった。他にも Future Earth 計画と統合的防災・災害研究の推進および関連する一般市民向け活動や教育活動等にも積極的に取り組んだ。
- ・ メーリングリスト等を用いて Future Earth、シンポジウム等について頻繁に議論し、また情報を発信した。
- ・ 日本学術会議主催学術フォーラム「われわれはどこに住めばよいのか? ~地図を作り、読み、災害から身を守る~」(日本地球惑星科学連合ほか後援、平成 27 年 6 月 20 日(土) 日本学術会議講堂にて開催)の開催を支援した。
- ・ 2015 年 7 月 27 日(月)~8 月 2 日(日)に名古屋で開催された INQUA Congress 2015 の特別セッション”future earth research for global sustainability with INQUA”の開催を支援した。

■ 固体地球科学セッション

- ・ 2015 年 1 月~3 月、5 月のボードミーティングに向けて、事業内容を議論した。
- ・ セクションの活動を活性化するために、セッションボードに新たなメンバーを迎え充実させた。
- ・ AGU との共催セッション提案を促すために、対応する AGU のセッションに対応する代表をセッションボードに選出した。2016 年ジョイントセッションに向けての提案すべきセッション(9~12 月)を検討した。
- ・ 学生発表賞の選考と表彰: 選考委員を 1 名から 2 名に増員し、選考過程を改善した。
- ・ セクションの内部構造として地球深部科学フォーカスグループの活動を引き続き支援した。
- ・ このフォーカスグループの事業として、2015 年度 10 月に連合の共催で地球深部研究会を地震研究所の研究会として開催した。
- ・ 固体地球科学セッションのホームページの内容を充実させた。固体地球科学セッション関係者への公募情報などを WEB に掲載し発信した。
- ・ セクション内部の構造についてのメーリングリストにもとづいて、議論を行った。
- ・ メーリングリスト等を用いてのボードメンバー間にて、ハイライト論文(2015 年 4 月)を選出した。
- ・ 固体地球科学セッションの褒賞制度を検討するワーキンググループを設置し、可能な褒賞の案、褒賞の選考規定等の検討を行った。
- ・ 連合の新英文誌 PEPS のレビュー論文の適切なトピックスと執筆候補者を検討した。適切な候補者に執筆を依頼し、原稿の投稿を依頼した。

■ 地球生命科学セッション

- ・ 連合大会でハイライト論文を選考した。
- ・ 連合大会におけるスペシャルレクチャーの講師として鈴木 淳氏を選出した。
- ・ 連合大会ユニオンセッション Geoscience Ahead 講師として上野雄一郎氏を選出した。
- ・ 連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行った。
- ・ 連合大会期間中にセッションボードのビジネスミーティングを開いた。

- ・山岸明彦氏と高橋嘉夫氏をプログラム委員に選出した。
- ・来年度の連合大会に向けて地球生命科学関連セッションの提案を呼びかけた。
- ・2015 年度選挙の選挙管理委員として癸生川陽子氏を選出した。
- ・地球生命学セッション登録者に代議員選挙を周知した。

(2) 顕彰制度関連活動

1) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰

学生優秀発表賞は、4 回目の実施である。前回に引き続き、参加セッションは全セッションに及んだ。また、学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、WEB システムの増強を行った。

2) 連合フェローの顕彰

2015 年度フェローの顕彰を行った。また、2016 年度フェロー候補者の募集と審査を行った。

3) 地球惑星科学振興西田賞授賞式の表彰

第 1 回地球惑星科学振興西田賞受賞者を表彰した。2016 年度大会における特別講演の準備を行った。

(3) 各種委員会活動

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

■総務委員会

- ・公益社団法人の円滑な運営に向けて諸規則の制定を行った。
- ・総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により行った。
- ・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った
- ・事務局の運営に関して監修と助言を行った。

■財務委員会

- ・国際対応と連合大会規模拡大に伴い 2016 年、2017 年度に必要となる費用を推算、今後 3 年間の予算収支について検討して、連合大会参加費値上げ案を理事会に提案した。
- ・2016 年 1 月 20 日(水)10:00～13:00 連合事務局にて委員会を開催した。
- ・平成 27 年度決算書、平成 28 年度予算書を策定した。

■広報普及委員会

- ・2015 年連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を開催した。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
- ・2015 年 8 月 19 日(水) 東京大学本郷キャンパス小柴ホールにて「日本地球惑星科学連合高校生のための夏休み講座 2015」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行し、会員のほか加盟学協会、高等学校、関連企業等に配

布のほか、pdf を連合 Web に掲載した。

- ・ニュースレター誌 JGL 特別号として 2014 年度フェロー受賞者の記念文集を発行し、pdf 版を連合 Web に掲載した。また、2015 年度フェロー受賞者については、JGL 夏号から順次掲載した。
- ・メールニュース定期号を年間 12 件、臨時号を年間 29 件発信した。
- ・連合ウェブで連合の活動や関連トピックスを画像ニュースとして公開した。
- ・連合ウェブで多様なお知らせやニュース等の情報発信を行った。
- ・「あかつきの金星到着に寄せて（声明）」および「2017 年における JpGU-AGU 共同大会開催について」のプレスリリースを行った。
- ・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

■環境災害対応委員会

- ・大規模災害発生時における各学協会の緊急対応方策や連絡方法を整理するとともに、2016 年 1 月に設立された防災学術連携体への対応をした。
- ・2015 年連合大会において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催した。
- ・2015 年 5 月 27 日（水）幕張メッセ国際会議場 106 号室にて委員会を開催した。
- ・委員会ホームページ (<http://www2.jpгу.org/n-dis/>) 上で各学協会が発信している災害関連情報へのリンクを集約した。
- ・2016 年 2 月 10 日（水）広島大学東京オフィス 408 会議室にて委員会を開催した。

■男女共同参画委員会

- ・大会期間中：委員会を実施した。キャリア支援委員会と連携してパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催し、キャリア支援ブースを展開した。保育室を運営した。
- ・7 月 18 日（土）：平成 27 年度第 2 回理事会にて両委員会の統合を承認し、後日名称をダイバーシティ推進委員会と定めた。
- ・8 月男女共同参画学協会連絡会：「若手支援」ワーキンググループ（WG）の主活動学会となることが第 13 期第 1 回の連絡会運営委員会（2015 年 1 月）にて承認された。今後は他の学協会の参加も募りつつ、同 WG のリード役として活動する。
- ・8 月 6～8 日：国立女性教育会館/JST 事業「女子中高生夏の学校」に企画段階から参加し、女子中高生への理系教育及びキャリア支援に協力した。
- ・1 月 15 日（金）第 1 回ダイバーシティ推進委員会を開催した。
- ・男女共同参画学協会連絡会対応と若手研究者育成 WG 活動を通年で行った。

■キャリア支援委員会

- ・キャリアパスアンケートを実施し（1 月～5 月）、結果速報を配布した（連合大会時）。
- ・2015 年連合大会でのパブリックセッション「研究者の多様なキャリア形成を考える」を開催した。

- ・2015 年連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営を行った。
- ・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告を行った（通年）。
- ・一般社団法人 知的人材連携センターが主催する「ビッグデータやデータサイエンスに関わる学生／研究者、企業の異分野異業種交流会 ～知と知の触発とデータ活用能力を活かしたキャリア発見～」2016 年 1 月 31 日（日）（於東京大学 本郷キャンパス）に出席した。
- ・委員会ウェブを整備した（通年）。

■教育問題検討委員会

学校教育および社会教育における地球惑星科学に関わる諸問題に対し。以下の活動を行った。

- ・2015 年 1 月 24 日 第 56 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」に向けた準備、および高校教員に向けた「地学基礎」に関する連合 web アンケート調査結果の分析結果の検討などを行った。
- ・2015 年 3 月 8 日 第 57 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」で配布する資料の校正等、高校教員に向けた「地学基礎」に関する連合 web アンケート調査結果のまとめなどを行った。
- ・2015 年 4 月 18 日 第 58 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」の当日の運営に関する打ち合わせを行った。また、本セッションで本小委員会委員が発表に用いる PPT の内容検討なども行った。
- ・2015 年 5 月 9 日 第 59 回教育課程小委員会開催（海城高校）連合大会パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」開催に向けた最終調整を行った。また、本セッションで本小委員会委員が発表に用いる PPT の最終案を確定した。
- ・2015 年 5 月 24 日 幕張メッセにて、教育検討委員会主催パブリックセッションを地学・地理教育シンポジウムとして開催し、地学基礎アンケート調査結果に基づき、次期学習指導要領改訂に向けて作成する提言の内容に関する議論などを行った。また、「総合的防災教育」セッション、「小・中・高等学校の地球惑星科学教育」セッション、「学部生向けの教育」セッションの開催支援を行った。
- ・2015 年 5 月 24 日 幕張メッセにて教育検討委員会（総会）を開催し、各小委員会の活動報告、平成 27 年度の活動方針を討議した。
- ・2015 年 7 月 12 日 第 60 回教育課程小委員会開催（海城高校） 本小委員会が関わった連合大会パブリックセッションの総括を行った。また、次年度の連合大会パブリックセッションの開催に向けた活動方針を討議した。さらに、8 月に開催される京都大学防災研究所研究集会の企画について議論を行った。
- ・2015 年 8 月 12 日 第 61 回教育課程小委員会開催（海城高校） 8 月下旬に開催される京都大学防災研究所研究集会での発表予定者から発表内容の概要報告があり、最終調整を行った。あわせて、教科書に掲載された用語不統一問題に関する実態調査を行い議論した。
- ・2015 年 8 月 29－30 日 京都大学防災研究所研究集会「自然災害科学としての地学教育－防災・減災知識の普及に向けて－」の開催に協力し、教育課程小委員会委員 6 名が発表を行った。

- ・2015年10月12日 第62回教育課程小委員会開催（学会センタービル） 次年度の連合大会パブリックセッションに向けて招待講演者の人選方法を検討した。また、中教審・教育課程企画特別部会による論点整理を受け、次期学習指導要領改訂に向けての提言作成方法を討議した。
- ・2015年11月8日 理数系学会教育問題連絡会によるシンポジウム「理数系教育におけるアクティブ・ラーニング」（筑波大学文京キャンパス）を共催した。
- ・2015年11月23日 地学オリンピック日本委員会との協同で、生徒および学校教員向け「ちきゅう」の見学会を行った。
- ・2015年11月28日 第63回教育課程小委員会開催（学会センタービル） 次期学習指導要領での「地学基礎」のあり方に関して討議した。また、次年度の連合大会パブリックセッション開催に向け、招待講演者の受諾の状況などを確認し、各委員の役割を決定した。
- ・2016年1月11日 第64回教育課程小委員会開催（海城高校） 文部科学省へ年度内提出を目指す提言の骨子を議論の上、決定した。また、日本学術会議地球惑星科学委員会人材育成分科会との協働にて用語不統一問題への取り組みを開始することを決定し、議論の開始に向けた方針を討議した。
- ・2016年1月13日 日本学術会議 広報。科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会の委員である教育課程小委員会委員長が、文部科学省教育課程課との懇談に出席し、意見交換を行った。
- ・教員免許状更新講習会の開催を行ってきている（公社）日本地震学会が主催する講習にて教育検討委員会のメンバーが講師として参加した。また、（公社）日本地球惑星科学連合主催による開催を行うための準備および理事会での協議を行った。

■情報システム委員会

- ・2016年大会システムにむけて、JpGU-AGU 合同大会となる2017年大会での運営もみすえて、予稿投稿システム、会員管理システムの刷新を、2017年大会準備タスクフォースと連携して行った。これまでの作業形態では事務局による手作業負担の大きかったAGUとの会員情報やりとりや大会セッションプログラム編成などを抜本的に変更して、想定されるAGU側との情報流通などの業務もオンラインでできるだけ人手を介さず行える設計とした。2016年1月からの予稿投稿から投稿システムの運用を開始した。
- ・2015年10月29日（木）、国立情報学研究所においてCODATA Japan データサイテーションワークショップを後援した。
- ・MyJpGUで採用しているオープンサイエンスにおいて重要とされる研究者の国際ID「ORCID」との調整協議を行い、JpGUからのORCID会員料金の支払いは、ORCID登録JpGU会員が増えるまでは保留することで合意した。

■ジャーナル企画経営委員会

- ・2015年6月26日（金）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、H25年度・26年度会計報告、H27年度実行計画についての説明および採択を行った。
- ・2015年10月26日（月）メールにて中間評価のための進捗状況報告書の内容を検討し承認を得

た。

- ・2015年11月12日（木）メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、2016年連合大会 JpGU 特別セッション提案の採択について検討し、採択された提案者に速やかに通知した。

■ジャーナル編集委員会

- ・2015年5月8日（金）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、WOS と SCOPUS への採録申請状況の報告、EPS との共同出版、不正投稿に関するペナルティ等について検討した。
- ・2015年5月26日（火）TKP ガーデンシティ幕張にて編集委員会を開催（24名参加、内2名外国人、2名海外から参加）、現状報告、SNS への取組の紹介と意見交換、Web サイトの新機能・Springer の今後の取組についての紹介があった。
- ・2015年6月9日編集委員会メール会議にて、論文の不正投稿に対するペナルティについて活発な議論を行い、正式な対応としては警告にとどめる事となった。
- ・2015年7月16日（木）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、不正投稿ペナルティに関するメール会議総括、学術会議からの検討依頼事項である Authorship と2重投稿の規程整備、DataPublication について検討した。また、地震学会の論文賞の選考対象として PEPS が追加承認された事が報告された。
- ・2015年8月27日（木）貸会議室プラザ八重洲北口において編集長会議を開催、論文表紙（CoverImage）の採用、DataPublication について検討した。また、編集者が投稿システム上で確認できる CrossCheck のオプション機能の説明、出版にかかるコストについて説明があった。
- ・2015年10月13日（火）浜松町 WTC コンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、PEPS の表彰制度、解像度の悪い査読終了論文・タイトルに問題のある論文への対応等を検討し、投稿テンプレートの更新について説明があった。
- ・2015年11月27日（金）TKP ガーデンシティ仙台において編集長会議を開催した。

■大会運営委員会

- ・2015年地球惑星科学連合大会を開催した。
- ・2015年9月9日（月）東京大学理学部1号館にて委員会を開催した。
- ・2015年11月28日（土）12:30～15:00 TKP 品川カンファレンスセンターにてプログラム編成会議を行った

■グローバル戦略委員会

- ・連合大会にて国際シンポジウム Geoscience Ahead を開催した。
- ・5月15日、8月18日、9月15日、11月24日グローバル戦略委員会開催を開催した。

■顕彰委員会

メーリングリスト等を用いて委員会ボードメンバー間にて顕彰関連の事案について検討を行った。

■フェロー審査委員会

- ・2015年12月31日（木）を締切として、2016年日本地球惑星科学連合フェローの候補者募集を行った。
- ・2016年2月19日（金）学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

- ・2015年大会において、第1回受賞者を表彰した。

■25周年記念事業実行委員会（旧名称：25周年記念事業準備委員会）

- ・2015年度大会期間中に記念シンポジウムを開催し、海外協力学会から研究者を招聘した。
- ・25周年記念行事が終了したため、第6回理事会にて本委員会の解散が承認された。

Ⅱ. 処務の状況

1. 役員等に関する事項

(1) 公益社団法人第5期会長、理事、監事

役 職			氏 名				所 属			
会 副 理	会 〃 〃 事 〃<									

(2) 公益社団法人第5期（平成26年度）社員

個人 98 名

（定款第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。）

宇宙惑星科学選出 15 名

大村 善治	（京 都 大 学）	橘 省吾	（北 海 道 大 学）
小久保 英一郎	（国 立 天 文 台）	中村 正人	（宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構）
小嶋 浩嗣	（京 都 大 学）	長妻 努	（情 報 通 信 研 究 機 構）
草野 完也	（名 古 屋 大 学）	永原 裕子	（東 京 大 学）
倉本 圭	（北 海 道 大 学）	横山 央明	（東 京 大 学）
佐々木 晶	（大 阪 大 学）	吉川 顕正	（九 州 大 学）
関 華奈子	（名 古 屋 大 学）	渡邊誠一郎	（名 古 屋 大 学）
高橋 幸弘	（北 海 道 大 学）		

大気水圏科学選出 19 名

大手 信人	（東 京 大 学）	田中 博	（筑 波 大 学）
沖 理子	（宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構）	谷口 真人	（総 合 地 球 環 境 学 研 究 所）
蒲生 俊敬	（東 京 大 学）	知北 和久	（北 海 道 大 学）
河宮 未知生	（海 洋 研 究 開 発 機 構）	津田 敏隆	（京 都 大 学）
北 和之	（茨 城 大 学）	中島 映至	（東 京 大 学）
近藤 豊	（東 京 大 学）	原田 尚美	（海 洋 研 究 開 発 機 構）
佐藤 薫	（東 京 大 学）	日比谷紀之	（東 京 大 学）

杉田 倫明 (筑 波 大 学)
 鈴木 啓助 (信 州 大 学)
 田中 賢治 (京 都 大 学)

村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

地球人間圏科学選出 13 名

井田 仁康 (筑 波 大 学)
 小口 高 (東 京 大 学)
 奥村 晃史 (広 島 大 学)
 近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
 佐竹 健治 (東 京 大 学)
 島津 弘 (立 正 大 学)
 中村 俊夫 (名 古 屋 大 学)

七山 太 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 春山 成子 (三 重 大 学)
 氷見山幸夫 (北 海 道 教 育 大 学)
 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
 安成 哲三 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
 横山 祐典 (東 京 大 学)

固体地球科学選出 30 名

井口 正人 (京 都 大 学)
 石渡 明 (東 北 大 学)
 岩森 光 (東 京 工 業 大 学)
 入船 徹男 (愛 媛 大 学)
 ウオリス サイモン (名 古 屋 大 学)
 歌田 久司 (東 京 大 学)
 大久保修平 (東 京 大 学)
 太田 雄策 (東 北 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学)
 鍵 裕之 (東 京 大 学)
 加藤 愛太郎 (東 京 大 学)
 川勝 均 (東 京 大 学)
 木村 学 (東 京 大 学)
 木村 純一 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 古村 孝志 (東 京 大 学)

竹村 恵二 (京 都 大 学)
 田中 聡 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 田中 愛幸 (東 京 大 学)
 中川 光弘 (北 海 道 大 学)
 中田 節也 (東 京 大 学)
 中谷 正生 (東 京 大 学)
 中村美千彦 (東 北 大 学)
 成瀬 元 (京 都 大 学)
 西村 卓也 (京 都 大 学)
 西山 忠男 (熊 本 大 学)
 浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 深畑 幸俊 (京 都 大 学)
 松澤 暢 (東 北 大 学)
 道林 克禎 (静 岡 大 学)
 三井 雄太 (静 岡 大 学)

地球生命科学選出 10 名

磯崎 行雄 (東 京 大 学)
 井龍 康文 (東 北 大 学)
 遠藤 一佳 (東 京 大 学)
 大河内直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 掛川 武 (東 北 大 学)

川幡 穂高 (東 京 大 学)
 北村 晃寿 (静 岡 大 学)
 小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)
 西 弘嗣 (東 北 大 学)
 高橋 嘉夫 (広 島 大 学)

地球惑星科学総合選出 11 名

飯田 佑輔 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 阿部 國廣 (自 然 再 生 セ ン タ ー)
 片山 直美 (名 古 屋 女 子 大 学)
 熊谷 英憲 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 佐野 有司 (東 京 大 学)
 瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)

畠山 正恒 (聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
 宮嶋 敏 (埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)
 矢島 道子 (東 京 医 科 歯 科 大 学)
 山本 高司 (川 崎 地 質 (株))
 横山 広美 (東 京 大 学)

団体会員 50

日本宇宙生物科学会	生命の起原および進化学会	日本地熱学会
日本応用地質学会	石油技術協会	地理科学学会
日本温泉科学会	日本雪氷学会	日本地理学会
日本海洋学会	日本測地学会	日本地理教育学会
日本火山学会	日本大気化学会	地理教育研究会
形の科学会	日本大気電気学会	地理情報システム学会
日本活断層学会	日本堆積学会	東京地学協会
日本気象学会	日本第四紀学会	東北地理学会
日本鉱物科学会	日本地学教育学会	土壌物理学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本粘土学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	日本農業気象学会
資源地質学会	日本地球化学会	物理探査学会
日本地震学会	地球環境史学会	日本陸水学会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	陸水物理研究会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本リモートセンシング学会
水文・水資源学会	日本地質学会	日本惑星科学会
生態工学会	日本地図学会	

(3) セクションボード

宇宙惑星科学セクション

佐々木 晶	(大 阪 大 学)	橘 省吾	(北 海 道 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	常田 佐久	(宇宙航空研究開発機構)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
吉川 顕正	(九 州 大 学)	永原 裕子	(東 京 大 学)
牛尾 知雄	(大 阪 大 学)	中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)
大村 善治	(京 都 大 学)	藤井 良一	(名 古 屋 大 学)
加藤 雄人	(東 北 大 学)	藤本 正樹	(宇宙航空研究開発機構)
草野 完也	(名 古 屋 大 学)	横山 央明	(東 京 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	塚本 尚義	(北 海 道 大 学)
小久保英一郎	(国 立 天 文 台)	渡邊誠一郎	(名 古 屋 大 学)
小嶋 浩嗣	(京 都 大 学)	渡部 潤一	(国 立 天 文 台)
関 華奈子	(名 古 屋 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
田近 英一	(東 京 大 学)		

大気水圏科学セクション

中島 映至	(東 京 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
杉田 倫明	(筑 波 大 学)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
川合 義美	(海洋研究開発機構)	花輪 公雄	(東 北 大 学)
沖 理子	(宇宙航空研究開発機構)	日比谷紀之	(東 京 大 学)
神沢 博	(名 古 屋 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
鬼頭 昭雄	(気 象 庁)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)
近藤 豊	(東 京 大 学)		

地球人間圏科学セクション

氷見山幸夫	(北海道教育大学)	小口 千明	(埼 玉 大 学)
佐竹 健治	(東 京 大 学)	後藤 和久	(東 北 大 学)
春山 成子	(三 重 大 学)	近藤 昭彦	(千 葉 大 学)
島津 弘	(立 正 大 学)	鈴木 毅彦	(首 都 大 学 東 京)
須貝 俊彦	(東 京 大 学)	鈴木 康弘	(名 古 屋 大 学)

青木 賢人	(金 沢 大 学)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
秋本 弘章	(獨 協 大 学)	千木良雅弘	(京 都 大 学)
荒井 良雄	(東 京 大 学)	藤原 広行	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
井田 仁康	(筑 波 大 学)	中村 俊夫	(名 古 屋 大 学)
上田 元	(東 北 大 学)	七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
碓井 照子	(奈 良 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
海津 正倫	(名 古 屋 大 学)	目代 邦康	(自 然 保 護 助 成 基 金)
岡本 耕平	(名 古 屋 大 学)	安成 哲三	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	横山 祐典	(東 京 大 学)
小口 高	(東 京 大 学)	渡辺 悌二	(北 海 道 大 学)

固体地球科学セクション

大谷 栄治	(東 北 大 学)	サティッシュ クマール マトースダシ	(新 潟 大 学)
西山 忠男	(熊 本 大 学)	鈴木 勝彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
入船 徹男	(愛 媛 大 学)	中川 光弘	(北 海 道 大 学)
岩森 光	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	中田 節也	(東 京 大 学)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
歌田 久司	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)
大久保修平	(東 京 大 学)	日置 幸介	(北 海 道 大 学)
金川 久一	(千 葉 大 学)	松澤 暢	(東 北 大 学)
唐戸俊一郎	(Yale University)	道林 克禎	(静 岡 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)		

地球生命科学セクション

小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	大河内直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	掛川 武	(東 北 大 学)
磯崎 行雄	(東 京 大 学)	北村 晃寿	(静 岡 大 学)
生形 貴男	(京 都 大 学)	鈴木 庸平	(東 京 大 学)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	高橋 嘉夫	(広 島 大 学)
稲垣 史生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	西 弘嗣	(東 北 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	真鍋 真	(国 立 科 学 博 物 館)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	山岸 明彦	(東 京 薬 科 大 学)
北里 洋	Founder President (海 洋 研 究 開 発 機 構)		

(4) 委員会等

総務委員会

古村 孝志	(東 京 大 学)	川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
成瀬 元	(京 都 大 学)		

財務委員会

北 和之	(茨 城 大 学)	高野 修	(石 油 資 源 開 発 株 式 会 社)
西 弘嗣	(東 北 大 学)	向山 栄	(国 際 航 業 株 式 会 社)
山田 泰広	(海 洋 研 究 開 発 機 構)		

広報普及委員会

田近 英一	(東 京 大 学)	佐藤 活志	(京 都 大 学)
原 辰彦	(建 築 研 究 所)	関根 康人	(東 京 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)

道林 克禎	(静 岡 大 学)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
阿部 彩子	(東 京 大 学)	橘 省吾	(北 海 道 大 学)
安藤 寿男	(茨 城 大 学)	谷 篤史	(大 阪 大 学)
生形 貴男	(京 都 大 学)	東宮 昭彦	(産業技術総合研究所)
大河内直彦	(海洋研究開発機構)	宮本 英昭	(東 京 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	山田 耕	(早 稲 田 大 学)
笠井 康子	(通 信 総 合 研 究 所)	横山 広美	(東 京 大 学)
久利 美和	(東 北 大 学)	吉本 和生	(横 浜 市 立 大 学)
紺屋 恵子	(海洋研究開発機構)		

環境災害対応委員会

田中 賢治	(京 都 大 学)	後藤真太郎	(立 正 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	作野 裕司	(広 島 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	塩竈 秀夫	(国 立 環 境 研 究 所)
小荒井 衛	(国 土 地 理 院)	志村 喬	(上 越 教 育 大 学)
吾妻 崇	(産業技術総合研究所)	鈴木 正哉	(産業技術総合研究所)
井口 隆	(防災科学技術研究所)	竹村 貴人	(日 本 大 学)
石峯 康浩	(国立保健医療科学院)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
宇根 寛	(国 土 地 理 院)	林 武司	(秋 田 大 学)
卜部 厚志	(新 潟 大 学)	前杵 英明	(法 政 大 学)
大月 義徳	(東 北 大 学)	益田 晴恵	(大 阪 市 立 大 学)
大野 博之	((株) 環 境 地 質)	松島 大	(千 葉 工 業 大 学)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
加藤 愛太郎	(名 古 屋 大 学)	宮地 良典	(産業技術総合研究所)
加藤 俊吾	(首 都 大 学 東 京)	村山 良之	(山 形 大 学)
河島 克久	(新 潟 大 学)	柳澤 教雄	(産業技術総合研究所)
川畑 大作	(産業技術総合研究所)	山崎 淳司	(早 稲 田 大 学)
北村 晃寿	(静 岡 大 学)	山下 亜紀郎	(筑 波 大 学)
熊木 洋太	(専 修 大 学)	吉川 顕正	(九 州 大 学)
小司 禎教	(気 象 研 究 所)	吉本 充宏	(富士山科学研究所)
後藤 和久	(東 北 大 学)		

ダイバーシティ推進委員会

原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	小口 千明	(埼 玉 大 学)
坂野井 和代	(駒 澤 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	渡邊 誠一郎	(名 古 屋 大 学)
小川 佳子	(会 津 大 学)	坂野井 健	(東 北 大 学)
天野 敦子	(産業技術総合研究所)	下司 信夫	(産業技術総合研究所)
紺屋 恵子	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	清野 直子	(気 象 研 究 所)
宋 苑瑞	(東 京 大 学)	土屋 範芳	(東 北 大 学)
西澤 あずさ	(海 上 保 安 庁)	富樫 茂子	(産業技術総合研究所)
宮下 由香里	(産業技術総合研究所)	若狭 幸	(秋 田 大 学)
末吉 哲雄	(国 立 極 地 研 究 所)	小杉 緑子	(京 都 大 学 大 学 院)
田近 英一	(東 京 大 学)	津野 宏	(横 浜 国 立 大 学)
藤光 康宏	(九 州 大 学)	松山 洋	(首 都 大 学 東 京)
佐藤 薫	(東 京 大 学)	栗田 敬	(東 京 大 学)
新井 真由美	(日 本 科 学 未 来 館)	浜田 盛久	(海洋研究開発機構)
守屋 和佳	(早 稲 田 大 学)	濱村 奈津子	(九 州 大 学)
吉川 知里	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	南雲 直子	(土 木 研 究 所)
古市 剛久	(University of the Sunshine Coast)	井岡 聖一郎	(弘 前 大 学)

教育検討委員会

畠山 正恒	(聖光学院中学高等学校)	武田 和久	(㈱開発設計コンサルタント)
瀧上 豊	(関東学園大学)	辻村 真貴	(筑波大学)
渡邊誠一郎	(名古屋大学)	津野 宏	(横浜国立大学)
縣 秀彦	(国立天文台)	中井 仁	(茨木工科高等学校)
阿部 國廣	(自然再生センター)	中井 睦美	(大東文化大学)
新井 真由美	(日本科学未来館)	西木 敏夫	(目白学園)
飯田 和明	(浦和東高等学校)	縫村 崇行	(千葉科学大学)
伊東 明彦	(宇都宮大学)	根本 泰雄	(桜美林大学)
伊藤 孝	(茨城大学)	納口 恭明	(防災科学技術研究所)
大園 真子	(山形大学)	濱田 浩美	(千葉大学)
大谷 具幸	(岐阜大学)	林 慶一	(甲南大学)
大村 善治	(京都大学)	林田 佐智子	(奈良女子大学)
小川 康雄	(東京工業大学)	廣内 大助	(信州大学)
奥野 誠	(東京大学)	藤 浩明	(京都大学)
奥山 康子	(産業技術総合研究所)	藤本 光一郎	(東京学芸大学)
海東 達也	(竹早高校)	松浦 執	(東海大学)
加藤 禎夫	(松山高高等学校)	松島 潤	(東京大学)
川合 美千代	(東京海洋大学)	松本 剛	(琉球大学)
熊原 康博	(広島大学)	萬年 一剛	(神奈川県温泉地学研究所)
小谷 亜由美	(名古屋大学)	三田 肇	(福岡工業大学)
小寺 浩二	(法政大学)	南島 正重	(両国高等学校)
西城 潔	(宮城教育大学)	宮岡 邦任	(三重大学)
坂本 正徳	(国学院大学)	宮崎 忠國	(東京農業大学)
佐溝 信幸	(資源開発(株))	宮下 敦	(成蹊中学高等学校)
佐々木 晶	(大阪大学)	宮嶋 敏	(深谷第一高等学校)
芝川 明義	(花園高等学校)	山崎 淳司	(早稲田大学)
島津 弘	(立正大学)	山下 敏	(熊谷女子高等学校)
鈴木 文二	(春日部女子高校)	山田 伸之	(福岡教育大学)
高橋 栄一	(東京工業大学)	山野 誠	(東京大学)
滝沢 由美子	(帝京大学)	吉本 充宏	(山梨県富士山科学研究所)
竹内 裕一	(千葉大学)		

情報システム委員会

村山 泰啓	(情報通信研究機構)	金田平太郎	(千葉大学)
小口 高	(東京大学)	坂口 有人	(山口大学)
近藤 康久	(総合地球環境学研究所)	篠原 育	(宇宙航空研究開発機構)
古村 孝志	(東京大学)	横山 央明	(東京大学)

ジャーナル企画経営委員会

川幡 穂高	(東京大学)	小林 憲正	(横浜国立大学)
津田 敏隆	(京都大学)	佐々木 晶	(大阪大学)
木村 学	(東京大学)	佐藤 正樹	(東京大学)
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	多田 隆治	(東京大学)
井龍 康文	(東北大学)	田近 英一	(東京大学)
大谷 栄治	(東北大学)	中島 映至	(東京大学)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	氷見山 幸夫	(北海道教育大学)
小原 一成	(東京大学)	杉田 倫明	(筑波大学)
西 弘嗣	(東北大学)		

ジャーナル編集委員会

川幡 穂高	(東 京 大 学)	佐藤 正樹	(東 京 大 学)
井龍 康文	(東 北 大 学)	渋谷 和雄	(国 立 極 地 研 究 所)
池原 研	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	清水 久芳	(東 京 大 学)
井上 源喜	(大 妻 女 子 大 学)	杉田 文	(千 葉 商 科 大 学)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	千木良 雅弘	(京 都 大 学)
大竹 真紀子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	中田 節也	(東 京 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
大手 信人	(東 京 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
小原 一成	(東 京 大 学)	日比谷 紀之	(東 京 大 学)
加藤 照之	(東 京 大 学)	平島 崇男	(京 都 大 学)
金谷 有剛	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
川勝 均	(東 京 大 学)	三ヶ田 均	(京 都 大 学)
菊地 俊夫	(首 都 大 学 東 京)	宮内 崇裕	(千 葉 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	村山 祐司	(筑 波 大 学)
兒玉 裕二	(国 立 極 地 研 究 所)	山本 衛	(京 都 大 学)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	芳村 圭	(東 京 大 学)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	渡辺 寧	(秋 田 大 学)

大会運営委員会

浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	近藤 昭彦	(千 葉 大 学)
岩上 直幹	(東 京 大 学)	財城 真寿美	(成 蹊 大 学)
興野 純	(筑 波 大 学)	高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	中村 昭子	(神 戸 大 学)
赤坂 郁美	(専 修 大 学)	能勢 正仁	(京 都 大 学)
大月 祥子	(専 修 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
金川 久一	(千 葉 大 学)		

グローバル戦略委員会

木村 学	(東 京 大 学)	末広 潔	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)	多田 隆治	(東 京 大 学)
関 華奈子	(名 古 屋 大 学)	田島 文子	(University of California)
橘 省吾	(北 海 道 大 学)	中島 映至	(東 京 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	中村 尚	(東 京 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	春山 成子	(三 重 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	氷見山 幸夫	(北 海 道 教 育 大 学)
加藤 照之	(東 京 大 学)	藤本 正樹	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)
佐々木 晶	(大 阪 大 学)	三宅 弘恵	(東 京 大 学)

顕彰委員会

中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	奥村 晃史	(広 島 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
諸田 智克	(名 古 屋 大 学)	ウリス サイモン	(名 古 屋 大 学)
渡部 重十	(北 海 道 大 学)	川勝 均	(東 京 大 学)
飯田 真一	(森 林 総 合 研 究 所)	磯崎 行雄	(東 京 大 学)
田中 博	(筑 波 大 学)	真鍋 真	(国 立 科 学 博 物 館)

フェロー審査委員会

* 審査委員会規則第6条により、委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

25周年記念事業実行委員会

津田 敏隆	(京 都 大 学)	田近 英一	(東 京 大 学)
小口 高	(東 京 大 学)	中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
川幡 穂高	(東 京 大 学)	浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
木村 学	(東 京 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)

2. 役員会等に関する事項

(1) 平成27年定期社員総会

平成27年5月27日(水) 16:15~17:15、千葉幕張メッセ国際会議場 国際会議室において開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議 事 事 項	
5月27日	第1号議案 平成26年度(公益社団法人第4期)決算承認の件 第2号議案 法人運営基本規程第3条(団体会員の入会基準)改正の件	承認

(2) 理事会

6回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項	
平成27年 5月7日(第1回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 代議員選挙規則改正の件 第4号議案 役員選考関連規則改正の件 第5号議案 総会議事および資料承認の件 第6号議案 国内準備タスクフォース(仮称)設置の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認
7月18日(第2回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 大会参加登録費改訂の件 第4号議案 選挙管理委員会設置の件 第5号議案 調達規則改正の件 第6号議案 会計規則設置の件 第7号議案 男女共同委員会キャリア支援委員会統合の件 第8号議案 地震連絡学会継続加入の件 第9号議案 事務局職員雇用の件 第10号議案 教員免許更新講習事業の件 第11号議案 その他 ・日本気象学会研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」への共催について ・時給規則について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
9月16日(第3回)	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 フェロー制度規則改定の件 第4号議案 EGUとのMOUの改定の件 第5号議案 理数系学会教育問題連絡会シンポジウム 共同主催の件 第6号議案 その他 「防災学術連携体」(同連絡会より改称)への年会費5万円の支出について	承認 承認 承認 承認 承認 承認

10月26日(第4回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 教員免許更新講座の件	承認 承認 継続審議
平成28年1月28日 (第5回)	第1号議案 会員(正会員)入会承認の件 第2号議案 JpGU-AGU共同事業推進資金(仮称)化について	承認 承認
3月10日(第6回)	第1号議案 新入会員承認 第2号議案 平成28年度事業計画および収支予算書承認の件 第3号議案 2016年度連合フェローの承認の件 第4号議案 IAG-IASPEI2017大会協賛の件 第5号議案 IGAC-iCACGP2018 サポートレター承認の件 第6号議案 25周年記念行事実行委員会の解散の件 第7号議案 (理事会開催以前に取り下げのため審議事項より削除) 第8号議案 教員免許更新講習開設の件 第9号議案 その他	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

メール審議

開催月日	審議事項	
3月18日発出	高等学校「理科」の基礎が付された全4科目必修化に関する提言 「地学基礎」の内容の精選と深化を求める提言	承認 継続審議

(3) 学協会長会議

平成27年5月27日(水) 午後1時から2時 幕張メッセ国際会議場 302号室

平成27年10月8日(木) 午後3時から5時 東京大学地震研究所1号館2階セミナー室

にて開催された。議題は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項
第12回 5月27日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 法人運営基本規程第3条(団体会員の入会基準)の変更について 4. 日本学術会議の近況報告 5. 次期学協会長議長の選任□
第13回 10月8日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 日本学術会議の近況報告 4. その他

3. 関連団体との連携及び協力に関する事項

・共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催期間
4月1日	後援	われわれはどこに住めばよいのか?～地図を作り、読み、災害から身を守る～	2015年6月20日(土)
4月17日	協賛	第56回高圧討論会	2015年11月10日(火)～11月12日(木)
6月15日	協賛	日本地質学第122年学術大会巡検	2015年9月10日(木)～15日(火)
6月24日	協賛	2015年 URSI 日本電波科学会議	2015年9月3日(木)～4日(金)
7月7日	協賛	女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～	2017年8月6日(木)～8日(土)
7月8日	後援	「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」	2015年10月5日(月)～2015年10月9日(金)
7月18日	共催	研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」	2015年9月1日(火)～2日(水)
8月19日	共催	第10回科学地理オリンピック日本選手権および第13回国際地理オリンピック日本代表選抜大会	2015年10月1日(木)～2016年3月13日(日)
9月24日	後援	非線形波動とカオス国際ワークショップ	2017年3月20日(月)～3月24日(金)
9月15日	共同主催	「理数系教育におけるアクティブ・ラーニング」	2015年11月8日(日)
9月24日	後援	ジオハザードに対処できる人材の育成:防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方	2015年11月20日(金)
10月5日	共催	ビッグデータ・データサイエンスに関わる学生/研究者、企業人の異分野・異業種交流会	2016年1月31日(日)
10月13日	後援	強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤—あなたの家の足元は大丈夫?—	2016年1月23日(土)
10月21日	後援	公開シンポジウム「生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国における IGBP25 年間の歩み」	2015年11月15日(日)
10月22日	協賛	CODATA ジャパン・データサイテーション・ワークショップ	2015年10月29日(木)
11月19日	協賛	モンスーンアジア文気候研究計画(MAHASRI)国際科学会議(The International Science Conference on MAHASRI)	2016年3月2日(水)～3月4日(金)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 東北大会	2015年12月6日(日)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 関東大会	2015年12月20日(日)
11月27日	後援	サイエンスキャッスル 2015 関西大会	2015年12月23日(水)
12月2日	後援	データシェアリングシンポジウム	2016年2月29日(月)
12月14日	協賛	2015年度量子ビームサイエンスフェスタ	2016年3月15日(火)～13月6日(水)
12月17日	協賛	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム	2016年6月6日(月)～6月7日(火)
2月5日	協賛	第20回計算工学講演会	2016年5月31日(火)～6月2日(木)
3月9日	後援	科学教育研究協議会 第63回全国研究大会・静岡大会	2016年8月6日(土)～8月8日(月)
3月10日	協賛	IAG-IASPEI 2017 Joint Assembly	2017年7月30日～8月4日

・サポートレターの発行

承認日	件名	申請者
4月14日	名古屋大学宇宙地球環境研究所(仮称)共同利用・共同研究拠点の認定について	名古屋大学太陽地球環境研究所 所長 町田 忍
5月21日	「連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点」申請にかかるサポートレター	海洋研究開発機構北極環境変動総合 研究センター長 河野 健
3月20日	Joint 14th Quadrennial iCACGP Symposium/15th IGAC Science Conference in 2018 in Takamatsu, Kagawa 開催	国立環境研究所 地球環境研究セン ター 地球大気化学研究室室長 谷本 浩志

・声明文・談話の発表

「あかつきの金星到着に寄せて」2015年12月10日

・プレスリリース

「2017年における JpGU-AGU 共同大会開催について」2015年12月25日

4. 登記、申請等に関する事項

なし

5. 職員に関する事項

勤務形態	当期末 (平成 27 年 3 月末)	前期末比増減	備考
週 5 日勤務	3 名	1 名	山本味沙 (平成 27 年 9 月 1 日採用)
週 4 日勤務	2 名	0 名	
週 2 日勤務	3 名	0 名	
週 1 日勤務	5 名	0 名	
合 計	13 名	0 名	

6. その他

(1) 特定費用準備資金、25周年記念事業開催に関する事項

特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金」から、計画通り大会会場の拡充、また記念シンポジウム「Geoscience Ahead」に出席する研究者の招聘旅費等に使用した。

(2) 特定費用準備資金、国際化推進に関する事項

特定費用準備資金「日本地球惑星科学連合国際化推進資金」から、AGUとの大会準備に向けた会合に関わる出張旅費、また国際会議INQUA Congress 2015における情報発信のためのブース出展等に使用した。

(3) 連合諸規則・規程等の制定と改正

- ・代議員選挙規則の改正
- ・役員候補者推薦委員会規則および選挙管理委員会規則の改正
- ・役員候補者選挙規則、役員候補者選挙実施細則の廃止
- ・理事候補者選挙規則、理事候補者選挙実施細則を設置
- ・調達規則の改正
- ・会計処理規則および公印取り扱い規則を設置
- ・フェロー制度規則の改正
- ・男女共同参画委員会およびキャリア支援委員会を統合しダイバーシティ推進委員会を設置、それに基づき委員会規則設置、ならびに関連規則委員会名変更
- ・25周年記念事業実行委員会解散

(4) 代議員構成に関する将来構想

- ・10月8日(木)に開催された学協会長会議にて、前年度に引き続き意見交換をした。
- ・10月16日(金)に開催された経営企画会議にて、学協会長会議での議論を踏まえ意見交換をした。
- ・10月26日(木)理事会にて学協会長会議、経営企画会議で出た意見や議論を報告し、それに基づいて意見交換をした。定款や規則を変更して体制を新たにする場合の新体制などが議論された。
- ・1月28日(木)第5回理事会にて意見交換をした。平成29年度定時社員総会で定款変更をする場合のスケジュールや、新体制のあり方が議論された。
- ・3月10日(木)第6回理事会にて会長より検討状況の報告があった。今後検討・改訂の必要な規則

が示され、意見交換を行った。

(5) 代議員選挙・セクションプレジデント選挙に関する事項

・選挙管理委員会を組織し、代議員選挙、セクションプレジデント選挙および理事候補者選挙を以下の日程で行った。開票結果詳細は、日本地球惑星科学連合ホームページに掲載した。

選挙管理委員名簿

浜田 盛久	海洋研究開発機構
行松 彰	極地研究所
長谷川拓也	海洋研究開発機構
吉田英嗣	明治大学
飯塚 毅	東京大学
癸生川 陽子	横浜国立大学

1. 代議員選挙

代議員選挙日程

代議員選挙公示	平成27年 8月 4日 (月)
代議員選挙立候補等受付開始	平成27年 8月12日 (水)
代議員選挙立候補等受付締切	平成27年 9月14日 (月)
代議員選挙投票開始	平成27年 9月29日 (火)
代議員選挙投票締切	平成27年 10月28日 (水)
代議員選挙開票、結果報告	平成27年 11月 2日 (月)

代議員選挙定数

有権者総数	7936 名
投票総数	1510 名 (投票率19.0%)
代議員選出総数	100名
宇宙惑星科学	: 16名
大気水圏科学	: 19名
地球人間圏科学	: 14名
固体地球科学	: 31名
地球生命科学	: 10名
地球惑星科学総合	: 11名

2015 年代議員選挙選出代議員 (100 名) 任期 : 2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
(登録区分別、50 音順)

■宇宙惑星科学選出 16 名

笠羽 康正 (東 北 大 学)
 倉本 圭 (北 海 道 大 学)
 佐々木 晶 (大 阪 大 学)
 高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)
 橘 省吾 (北 海 道 大 学)
 中村 昭子 (神 戸 大 学)
 中村 正人 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 吉川 顕正 (九 州 大 学)

草野 完也 (名 古 屋 大 学)
 小久保 英一郎 (国 立 天 文 台)
 関 華奈子 (名 古 屋 大 学)
 田近 英一 (東 京 大 学)
 長妻 努 (情 報 通 信 研 究 機 構)
 中村 卓司 (国 立 極 地 研 究 所)
 能勢 正仁 (京 都 大 学)
 渡邊 誠一郎 (名 古 屋 大 学)

■大気水圏科学選出 19 名

伊藤 進一 (東 京 大 学)
 蒲生 俊敬 (東 京 大 学)
 河宮 未知生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 近藤 豊 (国 立 極 地 研 究 所)
 佐藤 正樹 (東 京 大 学)
 坪木 和久 (名 古 屋 大 学)
 花輪 公雄 (東 北 大 学)
 原田 尚美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 日比谷 紀之 (東 京 大 学)
 吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

沖 理子 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
 川合 義美 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 北 和之 (茨 城 大 学 理 学 部)
 佐藤 薫 (東 京 大 学)
 津田 敏隆 (京 都 大 学)
 中村 尚 (東 京 大 学)
 早坂 忠裕 (東 北 大 学)
 東塚 知己 (東 京 大 学)
 安成 哲平 (北 海 道 大 学)

■地球人間圏科学選出 14 名

秋本 弘章 (獨 協 大 学)
 小口 千明 (埼 玉 大 学)
 近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
 島津 弘 (立 正 大 学)
 七山 太 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 氷見山 幸夫 (北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)
 松本 淳 (首 都 大 学 東 京)

小口 高 (東 京 大 学)
 奥村 晃史 (広 島 大 学)
 佐竹 健治 (東 京 大 学)
 須貝 俊彦 (東 京 大 学)
 春山 成子 (三 重 大 学)
 古谷 勝則 (千 葉 大 学)
 安成 哲三 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)

■固体地球科学選出 31 名

阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 入舩 徹男 (愛 媛 大 学)
 岩森 光 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 歌田 久司 (東 京 大 学)
 太田 雄策 (東 北 大 学)
 鍵 裕之 (東 京 大 学)
 亀 伸樹 (東 京 大 学)
 木村 学 (東 京 大 学)
 久家 慶子 (京 都 大 学)
 島 伸和 (神 戸 大 学)
 田中 聡 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 西村 卓也 (京 都 大 学 防 災 研 究 所)
 橋本 武志 (北 海 道 大 学)
 林 能成 (関 西 大 学)
 松澤 暢 (東 北 大 学)
 山岡 耕春 (名 古 屋 大 学)

井出 哲 (東 京 大 学)
 岩田 知孝 (京 都 大 学)
 ウォリス サイモン (名 古 屋 大 学)
 大久保 修平 (東 京 大 学)
 大谷 栄治 (東 北 大 学)
 片山 郁夫 (広 島 大 学)
 川勝 均 (東 京 大 学)
 木村 純一 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 篠原 宏志 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 下司 信夫 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
 趙 大鵬 (東 北 大 学)
 西村 太志 (東 北 大 学)
 浜野 洋三 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 古村 孝志 (東 京 大 学)
 道林 克禎 (静 岡 大 学)

■地球生命科学選出 9 名

井龍 康文 (東 北 大 学)
 大河内 直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 北村 晃寿 (静 岡 大 学)
 高野 淑識 (海 洋 研 究 開 発 機 構)

遠藤 一佳 (東 京 大 学)
 川幡 穂高 (東 京 大 学)
 高井 研 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
 高橋 嘉夫 (東 京 大 学)

西 弘嗣 (東 北 大)

■地球惑星科学総合選出 11 名

阿部 國廣	(認定 P O 法人自然再生センター)	飯田 佑輔	(宇宙航空研究開発機構)
小田 啓邦	(産業技術総合研究所)	熊谷 英憲	(海洋研究開発機構)
小林 則彦	(西 武 学 園)	佐野 有司	(東 京 大 学)
瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)	畠山 正恒	(聖光学院中学高等学校)
宮嶋 敏	(埼玉県立深谷第一高等学校)	矢島 道子	(東京医科歯科大学)
横山 広美	(東 京 大 学)		

2. セクションプレジデント選挙

セクションプレジデント選挙日程

セクションプレジデント選挙、公示	平成27年	11月 2日 (金)
セクションプレジデント選挙、候補者受付開始	平成27年	11月 5日 (木)
セクションプレジデント選挙、候補者受付締切	平成27年	11月16日 (月)
セクションプレジデント選挙、投票開始	平成27年	11月25日 (水)
セクションプレジデント選挙、投票締切	平成27年	12月 8日 (火)
セクションプレジデント選挙、開票、結果報告	平成27年	12月14日 (月)

2015年セクションプレジデント選挙結果

全てのセクションにおいて、それぞれ1名ずつ立候補・推薦があり、会員による投票をまたず、セクションプレジデントを決定した。 任期は、2016年6月1日～2018年5月31日

■宇宙惑星科学セクションプレジデント

高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)

■大気水圏科学セクションプレジデント

蒲生 俊敬 (東 京 大 学)

■地球人間圏科学セクションプレジデント

春山 成子 (三 重 大 学)

■固体地球科学セクションプレジデント

大谷 栄治 (東 北 大 学)

■地球生命科学セクションプレジデント

遠藤 一佳 (東 京 大 学)

3. 理事候補者選挙

理事候補者選挙日程

公示 平成 27 年 12月14日 (月)

候補者受付開始 平成 27 年 12 月 21日 (月)

候補者受付締切 平成 28 年 1 月 8日 (金)

投票開始 平成 28 年 1 月 29 日（金）

投票締切 平成 28 年 2 月 15 日（月）

開票 平成 28 年 2 月 19 日（金）

開票集計後、投票結果を役員候補者推薦委員会に提出した。

4. 役員候補者推薦委員会

平成 28 年 2 月 29 日（月）役員候補者推薦委員会会議開催

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者 20 名を選出した。また監事候補者 3 名を選出した。この候補者を来年度定時社員総会へ提出する。

役員候補者推薦委員会名簿

会長	津田敏隆	（京都大学）
学協会長会議議長	日比谷紀之	（東京大学）
セクションプレジデント		
宇宙惑星科学	高橋幸弘	（北海道大学）
大気水圏科学	蒲生俊敬	（東京大学）
地球人間圏科学	春山成子	（三重大学）
固体地球科学	大谷栄治	（東北大学）
地球生命科学	遠藤一佳	（東京大学）

理事候補者（50 音順）

氏名	
井出 哲	（東京大学）
ウォリス サイモン	（名古屋大学）
小口 高	（東京大学）
小口 千明	（埼玉大学）
奥村 晃史	（広島大学）
川幡 穂高	（東京大学）
北 和之	（茨城大学）
木村 学	（東京大学）
倉本 圭	（北海道大学）
瀧上 豊	（関東学園大学）
田近 英一	（東京大学）
津田 敏隆	（京都大学）
中村 昭子	（神戸大学）
中村 正人	（宇宙航空開発機構）
西 弘嗣	（東北大学）

浜野 洋三	(海洋研究開発機構)
原田 尚美	(海洋研究開発機構)
日比谷 紀之	(東京大学)
古村 孝志	(東京大学)
道林 克禎	(静岡大学)

監事候補者（50 音順）

北里 洋	(海洋研究開発機構)
鈴木 善和	(プラタナス法律事務所)
氷見山 幸夫	(北海道教育大学名誉教授)

Ⅱ. 会員の状況

(平成 27 年 3 月末)

	第 1 期末	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末	第 5 期末	増減
--	--------	--------	--------	--------	--------	----

個人会員

正会員	7139	7304	7540	7610	8021	+ 411
準会員 (学部生以下)	390	392	392	410	418	+ 8
大会会員	631	634	665	699	1061	+ 362

団体会員

	48	49	50	50	50	0
--	----	----	----	----	----	---

賛助会員

	0	1	1	2	2	0
--	---	---	---	---	---	---

平成 28 年度 事業計画書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

平成 28 年度 事 業 計 画 書

公益社団法人第 6 期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

平成 28 年（2016 年）度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）がこれまで推進してきた「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を推進する。特に、

- 1) 日本地球惑星科学連合大会の更なる発展
- 2) 一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての、関連科学の一般への普及
- 3) 国の科学・技術政策、教育問題の検討や提言、キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援
- 4) 連合ジャーナルの刊行

の活動を強化する。

ヨーロッパ地球惑星科学連合(EGU)、アジア太平洋地球科学学会(AOGS)及びアメリカ地球物理連合(AGU)等の組織との国際連携を一層強化して、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

また、2016 年連合大会は、AGU と連携し、多数の国際セッションを合同で開催する。

I. 事業の概要

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

(1) 日本地球惑星科学連合 2016 年大会（連合大会）の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究及び教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。

日本地球惑星科学連合 2016 年大会（Japan Geoscience Union Meeting 2016）

会 期：2016 年 5 月 22 日（日）～26 日（木）

場 所：幕張メッセ国際会議場、国際展示場 6 ホール、APA ホテル（〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1）

大会委員長：日比谷紀之（東京大学）

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：46 団体（日本学術会議、文部科学省、国土交通省 国土地理院、気象庁 気象研究所、気象庁地磁気観測所、国土交通省 海上保安庁 海洋情報部、北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、日本科学未来館、建築研究所、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構、森林総合研究所、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、土木研究所、日本原子力研究開発機構、農業環境技術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所、物質・材料研究機構、災科学技術研究所、理化学研究所、国立教育政策研究所、高エネルギー加速器研究機構、自然科学研究機構 国立天文台、情報・システム研究機構 国立極地研究所、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所、総合地球環境学研究所、地震予知総合研究振興会、地球環境産業技術研究機構、電力中央研究所、日本宇宙フォーラム、日本地図センター、深田地質研究所、全国地質調査業協会連合会、電子情報通信学会、東京都地質調査業協会、日本機械学会、日本航空宇宙学会、日本測量協会、日本分析機器工業会、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、ちば国際コンベンションビューロー）

協 賛：6 学協会（日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、日本天文学会、日本地震工学会、土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会、砂防学会）

開催セッション数：

カテゴリー別	開催数	
U: ユニオンセッション	6	(*2)
O: パブリック	6	(*0)
P: 宇宙惑星科学	21	(*10)
A: 大気水圏科学	24	(*10)
H: 地球人間圏科学	28	(*11)
S: 固体地球科学	63	(*21)

B: 地球生命科学	9	(*4)
G: 教育アウトリーチ	5	(*1)
M: 領域外・複数領域	33	(*5)
計	195	(*64)

(*) 国際セッション数 (内数)

発表論文数：4300 件 (概算、予定)

参加者数：7000 人 (見込み)

展示企画 (ブース数)：団体展示 (65)、書籍出版関連商品 (26)、大学インフォメーションパネル (11)、学協会エリア個別デスク (10)、パンフレットデスク展示 (6)

(2) 「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を研究者に対して発表するための、連合大会初日 (5 月 22 日、日曜日) にポスター発表会を開催する。今年度は、前年度程度 (71 件) の発表を予定している。

(3) 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、秋季 (11 月予定) に一般市民 (とくに高校生) を対象として、「秋の公開講演会」を開催予定である。

■次期学習指導要領で求められる資質・能力の達成を目指して

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：教育検討委員会

■高校生によるポスター発表

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：広報普及委員会

■地球惑星科学トップセミナー

期 日：5 月 22 日 (日)

主 催：広報普及委員会

内 容：地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に分かりやすく紹介していただく
・講師及び内容 (予定)

生駒 大洋 (東京大学) 「系外惑星研究：新時代の始まり」

今村 剛 (宇宙航空研究開発機構) 「金星探査機「あかつき」が拓く惑星大気科学の未来」

石井 信明（宇宙航空研究開発機構） 「日本初の惑星周回衛星「あかつき」の軌道制御」

■ジオパークへ行こう

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

主 催：日本ジオパーク委員会

内 容：

ジオパークに興味のある市民、高校生、教員の方々を対象として、日本各地のジオパークで活躍するジオガイドが、ジオパークの見どころをわかりやすく面白く紹介する。ポスターセッションでは各地のジオパークやジオパークをめざす地域から、教育活動や普及活動の事例報告を行う。

■地球科学界と原子力発電の関係 ―浜岡原発を題材として―

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

内 容：

日本における原子力発電所の在り方について、地球科学的見地からの議論を行う場をオープンにかつ継続的に設けることは、地球科学と社会とのかかわりを考える上で必要な作業であると考え、2013 年よりセッションを開催している。昨年のセッション「日本の原子力発電と地球科学：地震・火山科学の限界を踏まえて」において、コミュニティー内にとどまって議論するのではなく「公共空間」での議論の必要性が認識された。今回はそれをふまえて、パブリックセッションで議論する。

静岡県浜岡原子力発電所は巨大地震の想定震源域直上に位置し、地震・津波の想定に基づく様々な対策が取られている。このような事情から同原発は原子力発電と自然災害および地球科学の関係を象徴する存在と考えられる。本セッションでは対象を浜岡原発に絞り、同原発に関する最新の地球科学的研究成果の検討を軸に、同原発と地球科学界との関連の歴史的総括及び今後のあるべき関係、といったトランスサイエンス的な話題も取り入れて議論する。

■JpGU 所属の学生・研究者にとってのダイバーシティ推進とは何か？

期 日：平成 27 年 5 月 22 日（日）

主 催：ダイバーシティ推進委員会

内 容：

組織等において、多様な能力を活かし組織の活動を活性化させるという観点から、「ダイバーシティ」という言葉が使われるようになって約 10 年がたつ。しかしながら、大学・研究現場においてはまだ「ダイバーシティ」という概念の浸透度が低く、課題が多いのが現状である。

ダイバーシティ推進のためには、多様な人材が持つ能力を最大限発揮できる研究環境の整備や、多様性を尊重するという意識が重要であり、女性/男性、外国人 /日本人、若手/中堅/ベテランの研究者のいずれもが、その特性を活かした能力を発揮して研究・教育活動に参画していけるようにすることが必要であると考えられる。

JpGU では、2016 年度より正式に、キャリア支援委員会と男女共同参画委員会とを統合し、ダイバーシティ推進委員会として新たな一歩を踏み出した。この機会に「JpGU 所属の学生・研究者にとってのダイバーシティ推進とは何か？」という問題を改めて問い直す。

■日本地球惑星科学連合 秋の公開講演会

期 日：2016 年 11 月 （予定）

場 所：（未定）

主 催：広報普及委員会

内 容：（未定）

（４）「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象とするわかりやすい内容の講演会を開催する。

期 日：平成 2 年 5 月 22 日（日）～5 月 26 日（金）

場 所：会場内

主 催：大会運営委員会

内 容：本年度は、第 1 回地球惑星科学振興西田賞受賞者による記念講演を行う。

講演者予定：相川 祐理（筑波大学） 河北 秀世（京都産業大学） 是永 淳（イェール大学）
鈴木 建（東京大学） 竹村 俊彦（九州大学） 長谷川 洋（宇宙航空開発研究機構） 三
好 建正（理化学研究所） 三好 由純（名古屋大学） 渡部 雅浩（東京大学）

（５）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示，地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設ける。

また、毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかる。

2. 地球惑星科学に関わる研究成果の刊行及び教育普及

我が国の地球惑星科学及び関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の出版事業とともに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

（１）連合学術誌の出版の高度化

2014 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナルのさらなる国際情報発信力強化に取り組む。そのために、日本学術振興会からの科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を有効に活用して、投稿及び引用を促進するための施策を引き続き推進する予定である。具体的には、①2013～15 年度に引き続き、2016 年連合大会の発表の中からコンピーナー推薦の優秀発表への投稿依頼、②2014～15 年度において成果のあった、ジャーナル特別国際セッション及びジャーナル関連特別シ

ンポジウムにおける旅費の支援と原稿依頼、③科学的にホットなテーマを取り上げて論文の投稿を呼びかける SPEPS の推進、④内閣府においても促進を検討中のカテゴリーであるデータ出版への新規取組などを進める。また、新ジャーナルの認知度を高めるために、引き続き国際会議へのブース出展や連合参加学会が主催する会議でのこまめな紹介などを通じて、広報活動にも努めると。日本語 Abstract や SNS を活用して出版論文を紹介し、引用促進にも取り組む。H28 年度は 60 論文程度の出版を目指す。

さらに、出版開始後 2 年を経過し、Springer から申請条件を満たしたとの判断を得たことから、学術文献・引用検索データベース（Thomson Reuter の WOS 及び Elsevier の SCOPUS）への収録を申請するとともに、関係者に働きかけを行う。

また、他誌との連携に向けた協議を進める。

（2）連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

連合加盟学会による十数種の国際誌出版を数えると、全体としては AGU、EGU に匹敵していることに鑑み、国際誌を出版する学協会に連合ロゴの掲載を依頼するなど、日本の地球惑星科学のジャーナルの「見える化」を促進する。具体的には、連合のホームページ上での紹介、海外で開催される国際学術大会で連合ブース出展、連合加盟学協会が出版する学術誌の展示等を行うなど、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及に関する支援を系統的に行なっていく。

（3）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年 4 号（予定）定期発行する。

発行部数 : 26,000～30,000 部

配布先 : 会員（個人、団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）

博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）

高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学高等学院他）

関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

（4）ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員及び一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、毎月定期号を配信するほか、ウェブサイトによる情報発信及びコンテンツの充実を図り、会員及び一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

3. 国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般からの諸要請への対応に向け、以下の活動を行う。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

第14回学協会長会議

期日：2016年5月23日（月）12：30～13：30（予定）

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

第15回学協会長会議

期日：2016年10月（予定）

場所：東京大学（東京都文京区）（予定）

(2) 地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

■全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

期日：連合大会 会期中

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

開催日	開催場所	出展大会名
2016 年 4 月 17-22 日	ウィーン (オーストリア)	EGU General Assembly 2016
2016 年 8 月 2-7 日	北京 (中国)	AOGS 13th Annual Meeting
2016 年 12 月 12-16 日	サンフランシスコ (アメリカ合衆国)	AGU 2016 Fall Meeting

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか、外国開催に関わる支援を行う。

第 13 回国際地理オリンピック

期日：2016 年 8 月 16 日～22 日

場所：北京（中国）

第 10 回国際地学オリンピック

期日：2016 年 8 月 20 日～27 日

場所：三重県（日本）

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、科学的提言を発信する。

(1) 複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

(2) 複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

6. セクションサイエンスボードおよび委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興を図ることを目的として、ユニオンサイエンスボード及びセクションサイエンスボード、ならびに各委員会の活動を推進する。

(1) サイエンスボードの活動

■宇宙惑星科学セクション

宇宙惑星科学セクションでは、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、学術会議のロードマップ、JAXA の宇宙科学 RFI (工程表) に基づく議論を進め、関連諸学会との協力により意見をまとめる。その他の活用予定は以下の通り：

- ・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数が国際セッションであり、その多くが AGU との合同セッションとなった。今後もセッションの国際化は強化する方向で努力を続ける。
- ・連合大会において、昨年に引き続き、学生優秀発表を選考して表彰する。連合の新ジャーナル PEPS 誌、及び宇宙惑星科学分野もこれまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。
- ・セクションの活動のために、連合大会期間中にセクションボード会議を行うほか、関連学会の秋季講演会などの機会を利用してセクションボード会議を頻繁に開催する。

■大気水圏科学セクション

- ・連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
- ・連合大会のセッションに講演者を招聘し旅費の援助を行う。また、2017 年度の JpGU-AGU 共同大会に向けてジョイントセッション提案の準備を進める。
- ・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。

■地球人間圏科学セクション

- ・連合大会において、以下の活動を行う：
- ・セクションボードミーティングの開催。
- ・H-SC04 “Implementing Geoscience Research for the Earth’s Future” ほかの AGU とのジョイントセッションを成功させ、次年度における本格的な JpGU と AGU の協働につなげる。
- ・U-05 「Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究」を他セクションと共同で開催する。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰を行う
- ・地球環境問題、大規模災害、フューチャー・アースへの対応(シンポジウム、研究計画提案、アウトリーチ、論文・報告執筆など)を行う。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかる。
- ・ジオユニオン活動 (IGU 大会、ICA 大会など) との連携を進める。

■固体地球科学セッション

- ・連合大会時にセッションボードメンバーを招集しセッションボードミーティングを開催する。
- ・学生優秀発表賞の選考と表彰については、選考委員 2 名体制で選考方法を充実させる。
- ・ホームページをさらに充実させる。
- ・セッションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループの創設を目指す。このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、海外の組織と連携した国際会議の共催を支援する。
- ・国際セッションのコンビーナーを中心に、内部組織としてのフォーカスグループの創設を支援する。
- ・2016 年、2017 年の AGU などとの共催セッションの継続的な提案を可能にする。
- ・セッションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞制度を検討する。

■地球生命科学セッション

- ・連合大会において地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）を開催する。
- ・連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行う。
- ・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行う。
- ・地球生命科学の長期的ビジョンの模索を行う。
- ・PEPS への地球生命科学関連論文の投稿を呼びかける。

（2）顕彰制度関連活動

- ・連合大会における「学生優秀発表」の表彰を行う。
連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセッション単位で実施する。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、増強された WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。
- ・連合フェロー顕彰：
2016 年度フェローを表彰する。2017 年度フェロー授賞候補者を募集し審査する。
- ・地球惑星科学振興西田賞：
2016 年度大会における特別講演を行う。第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の募集と審査を行う。
- ・学生旅費補助制度：
2016 年度大会において学生旅費補助制度を新設し、補助対象者の募集と審査を行う。

（3）各委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、委員会と理事会の意志疎通をはかる。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

■総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備を図る。特に連合事務局の就業規則や給与関連規則等の整備を進める。連合の代議員構成のありかたについて、ワーキンググループで継続審議し、時

期代議員選挙時の組織の見直しに向けて社員総会等で説明するなど準備を進める。

■財務委員会

連合の運営基盤の強化のために、支出の効率化など中長期的に学会運営に関して経理面の課題と対策を検討する。

■大会運営委員会

連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。

■情報システム委員会

2017 年の JpGU-AGU 合同大会へむけて、2015 年度に刷新した投稿システムなどオンラインシステムの改良作業を行う。

■グローバル戦略委員会

- ・連合大会において AGU とのジョイントセッションの活性化を図る。
- ・同大会で International Mixer Luncheon を開催する。昨年大会に引き続き連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図る。
- ・2017 年 JpGU-AGU ジョイントミーティングの開催準備を行う。
- ・EGU・Goldschmidt・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする。
- ・発信力強化のため、連合ホームページにおける英語ページの充実をはかる。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳し掲載する。

■教育検討委員会

- ・次期学習指導要領改訂に向けての中央教育審議会での作業進行に対し、教育課程小委員会からのカリキュラム案作成、文部科学省への提言の作成、及び教員養成等小委員会からの教員の研修や養成のあり方について意見や提言を出せるよう、準備を進める。
- ・教科書に用いられている用語に起因する課題解決に向けた取り組みを、日本学術会議地球惑星科学委員会人材育成分科会と協同にて行う。日本学術会議に対して、小～高等学校・大学・大学院教育に関わる課題解決等に向けた協力を進める。
- ・Future Earth や ESD (Education for Sustainable Development) において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りへの協力を行う。
- ・地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援を引き続き行う。
- ・JpGU での新規事業（教員免許状更新講習の開設・試行・実施）の実施に向けた準備を継続して進める。
- ・地学オリンピック、地理オリンピックへの協力を引き続き行う。高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高め地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学(地学・地理)オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行う。また、地理オリンピックの外国開催、及び第 10 回国際地学オリンピック日本大会開催の支援を行う。

第 13 回国際地理オリンピック

期日：2016 年 8 月 17 日～21 日

場所：北京（中華人民共和国）

（国内選抜は、2016 年 1 月 9 日（第 1 次選抜）、2 月 21 日（第 2 次選抜）、3 月 12 日～13 日（第 3 次選抜）にて実施。）

第 10 回国際地学オリンピック

期日：2016 年 8 月 20 日～27 日

場所：三重県（日本）

（国内選抜は、2015 年 12 月 20 日（予選）、2016 年 3 月 13 日～15 日（本選）にて実施。）

- ・理数系学会教育問題連絡会に参加し、学校での理数・情報教育の改善に向けた対応に努める。また、理数系教育シンポジウムを共催する。
- ・AGI と合同で普及教育活動を企画・実施する。

■広報普及委員会

- ・連合大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」、高校生・学部生向け企画「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催予定。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信予定。
- ・2016 年 11 月頃に「日本地球惑星科学連合 2016 年秋の公開講演会」を開催予定。映像を記録して動画配信予定。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行予定。
- ・メールニュース定期号を年間 12 号、臨時号を必要に応じて随時配信予定。
- ・ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定。
- ・英語版ウェブサイトの充実をはかる。
- ・2016 年度フェロー受賞者の紹介を JGL に掲載予定。
- ・必要に応じてプレスリリースや記者会見を行う。

■ジャーナル企画経営委員会

- ・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、随時委員会を開催して検討する。また、事業の中間評価実施年度への対応についても検討する。

■ジャーナル編集委員会

- ・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決策について検討する。

■ダイバーシティ推進委員会

- ・キャリアパスアンケートを実施（1 月～5 月）し、結果速報を連合大会時に配布する。

- ・連合大会でのパブリックセッションまたは集会を開催する。
- ・連合大会でのキャリアパス支援ブースを運営する
- ・連合大会での保育室の運営を行う。
- ・キャリアパスアンケート解析、ウェブ等での結果報告を通年で行う。
- ・男女共同参画学協会連絡会対応と若手研究者育成 WG 活動を通年で行う。
- ・女子中高生夏の学校（8月）に参画する。実行委員の派遣、ポスター発表による JpGU の宣伝などを行う。
- ・秋または冬頃（10月～12月）にキャリア関係シンポを開催予定。
- ・委員会ウェブの整備を通年で行う。
- ・AGU、EGU 等のブースでの留学生対応を実施予定。

■環境災害対応委員会

環境・災害問題に関する重要課題を調査し、大規模災害発生時の連合の緊急対応方策及び各学協会の連携方法を確立すると共に、連合大会においてセッションを開催する。防災学術連携体の対応を行う。

■顕彰委員会 学生優秀発表賞小委員会

- ・日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。
- ・顕彰事業の一環として、連合大会における学生旅費補助審査を行う。
- ・顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、連合大会における学生優秀発表賞制度を運営する。

■フェロー審査委員会

連合大会でのフェロー表彰に向けて、フェローを選考し、理事会に推薦する。

■地球惑星科学振興西田賞審査委員会

本章の審査は隔年で行う。本年度は受賞候補者の募集および審査を行う。第1回受賞者による特別講演会を連合大会にて開催する。

平成28年度 収支予算書

公益目的事業会計

科 目		平成28年度 予算額	前年度 予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基 本 財 産 運 用 益		1,600	1,250	350
特 定 資 産 運 用 受 取 利 息		1,600	1,250	350
特 定 資 産 運 用 受 取 利 息		2,000	3,000	-1,000
受 取 年 度 費 費		12,200,000	11,000,000	1,200,000
事 業 収 入		135,450,192	102,445,200	33,004,992
学 術 大 会 参 加 料 料 収 入		134,942,692	102,295,200	32,647,492
大 会 参 加 料 料 収 入		92,900,000	65,050,000	27,850,000
投 稿 料 料 収 入		16,731,260	14,300,000	2,431,260
団 体 展 示 料 料 収 入		19,473,000	18,300,000	1,173,000
大学インフォメーションパネル収入		760,000	770,000	-10,000
書 籍 展 示 料 料 収 入		1,300,000	1,200,000	100,000
パ ン フ レ ッ ト デ ス ク 収 入		21,000	40,000	-19,000
会 議 室 使 用 料 料 収 入		2,097,090	1,744,000	353,090
会 議 室 使 用 料 料 収 入		546,394	291,200	255,194
学 協 会 出 展 料 料 収 入		360,000	300,000	60,000
日 本 協 会 出 展 料 料 収 入		54,000	50,000	4,000
そ の 他		699,948	250,000	449,948
刊 行 事 業 収 入		507,500	150,000	357,500
J G L 広 告 料 料 収 入		507,500	150,000	357,500
雑 収 益		10,000	5,000	5,000
受 取 利 息		10,000	5,000	5,000
受 取 補 助 金 等		43,138,260	34,838,260	8,300,000
26年度科学研究費補助金研究成果公開促進費		0	0	0
千葉コンベンションビューロー補助金		0	200,000	-200,000
28年度科学研究費補助金研究成果公開促進費		38,138,260	34,638,260	3,500,000
寄付金 地球惑星科学振興西田賞		5,000,000	0	5,000,000
会員寄附金		0	0	0
経常収益計		190,802,052	148,292,710	42,509,342
(2) 経常費用				
事 業 費		181,412,621	144,566,130	36,846,491
給 料 手 当 費		26,330,000	21,797,870	4,532,130
法 定 福 利 賃 金		2,200,000	2,530,000	-330,000
臨 時 雇 用 費		6,092,000	4,624,000	1,468,000
ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 費		100,000	400,000	-300,000
会 費		5,992,000	4,224,000	1,768,000
旅 費		6,434,000	3,483,000	2,951,000
通 交 費		21,931,500	22,499,500	-568,000
通 信 運 通 搬 費		1,200,000	1,470,000	-270,000
減 価 償 却 費		20,731,500	21,029,500	-298,000
消 耗 什 器 備 品		3,188,400	2,970,400	218,000
消 耗 什 器 備 品		3,906,820	3,838,260	68,560
印 刷 費		300,000	100,000	200,000
印 刷 費		5,058,600	3,726,500	1,332,100
印 刷 費		17,371,620	15,630,400	1,741,220
印 刷 費		500,000	638,000	-138,000
印 刷 費		2,790,000	2,100,000	690,000
印 刷 費		120,000	121,000	-1,000
印 刷 費		4,029,120	3,773,520	255,600
印 刷 費		8,000,000	6,800,000	1,200,000
印 刷 費		1,932,500	2,197,880	-265,380
印 刷 費		40,000	0	40,000
印 刷 費		480,000	1,100,000	-620,000
印 刷 費		41,655,001	34,720,600	6,934,401
印 刷 費		2,646,465	3,446,500	-800,035
印 刷 費		328,536	174,000	154,536
印 刷 費		25,030,000	19,728,800	5,301,200
印 刷 費		12,800,000	11,101,300	1,698,700
印 刷 費		850,000	270,000	580,000
印 刷 費		5,200,000	2,810,000	2,390,000
印 刷 費		3,300,000	1,410,000	1,890,000
印 刷 費		3,050,000	2,330,000	720,000
印 刷 費		3,635,000	3,464,600	170,400
印 刷 費		1,205,000	825,000	380,000
印 刷 費		15,036,680	14,178,000	858,680
印 刷 費		4,220,000	6,270,000	-2,050,000
印 刷 費		10,816,680	7,908,000	2,908,680
印 刷 費		4,200,000		
印 刷 費		5,000,000		
印 刷 費		145,000	395,000	-250,000
印 刷 費		53,000	33,000	20,000
印 刷 費		5,600,000	2,100,000	3,500,000
管 理 費		11,693,502	9,534,380	2,159,122
給 料 手 当 費		6,570,000	4,920,000	1,650,000
法 定 福 利 賃 金		200,000	300,000	-100,000
臨 時 雇 用 費		0	0	0
ホ ー ム ペ ー ジ 作 成 費		1,650,000	1,280,000	370,000
会 費		450,000	280,000	170,000
旅 費		1,200,000	1,000,000	200,000
通 交 費		150,000	137,500	12,500
通 信 運 通 搬 費		100,000	50,000	50,000
減 価 償 却 費		224,400	280,500	-56,100
消 耗 什 器 備 品		12,000	12,000	0
消 耗 什 器 備 品		879,102	1,020,380	-141,278
印 刷 費		736,438	919,380	-182,942
印 刷 費		92,664	66,000	26,664

経常費用計	193,106,123	154,100,510	39,005,613
評価損益等調整前当期経常増減額	-2,304,071	-5,807,800	3,503,729
損益評価等計			
当期経常増減額			
2. 経常外増減の部			
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高			
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金			
受取寄付金（西田賞）			
特定資産運用益			
一般正味財産への振替額			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高			
III 正味財産期末残高			

報告事項 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

平成 27 年度 定時社員総会（平成 27 年 5 月 27 日開催）

議事録より

第 2 号議案 法人運営基本規程第 3 条（団体会員の入会基準）改正の件

議長の指名により、会長津田敏隆氏から、法人運営基本規程第 3 条の改正について説明があった。連合の団体会員の入会基準を、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」と改正することを諮ったところ、社員の賛成多数により承認された。

第 13 回学協会長会議（平成 27 年 10 月 8 日開催）

議事録より

（４）法人運営基本規程第 3 条改正について

法人運営基本規程第 3 条の改正について、津田会長より報告があった。平成 27 年度定時社員総会（5 月 27 日）にて改正された。連合の団体会員の入会基準を、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」と改正した。

これは第 11 回学協会長会議（平成 26 年 10 月 16 日）にて報告があったとおり、内閣府公益認定等委員会事務局からの二点の指摘のうち一点に基づく改正である。

もう一点の指摘についても検討している。すなわち、「連合の社員（代議員）は、正会員により選出された代議員（選出代議員）と団体会員（加盟学協会）の代表（団体代議員）により構成されるが、正会員によっては、自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり、公平性に欠けるのではないか」という指摘である。これについての意見交換を行った。

現状の規則や制度の中での公平性を十分に説明できれば、現在の体制が認められるのではないかという意見、仮に体制を変更することになった場合の団体会員の意見の反映のための制度についての意見など、様々な意見が挙げられた。引き続き、連合理事会でも議論を続けてゆく。

日本地球惑星科学連合第 4 回理事会 （平成 27 年 10 月 26 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、連合全体の活動について報告があった。

10 月 16 日（金）に開催された経営企画会議についての報告があった。中でも、かねてより内閣府公益認定等委員会から指摘を受けている連合の社員構成の件についての検討状況が報告され、当理事会でも意見交換を行った。今後も充分検討する必要があるとした。

日本地球惑星科学連合第 5 回理事会 （平成 28 年 1 月 28 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、社員の体制に関する検討について報告があった。

前回理事会までの議論を踏まえ、現在の団体会員を社員とする体制を変更する場合の新たな体制、理事会との関わり方の検討や、学協会長会議幹事会（仮）の設置について提案があり、意見交換を行った。将来的な定款の改定を伴う体制の変更に向け、今後更に検討してゆくこととなった。

日本地球惑星科学連合第 6 回理事会 （平成 28 年 3 月 10 日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告（抜粋）

団体会員について、これまでの議論に基づき、定款および規則の変更箇所を議論した。

社員構成では団体会員を除き、選出代議員のみで構成することが議論された。今後、社員（代議員）の定数を検討する必要がある。また、学協会長会議の位置づけと、社員総会と理事会との協調関係についてさらに検討を加える必要がある。この提案を次回の社員総会で紹介し、次々回の社員総会で定款の改訂を目指す。

法人運営基本規程（抜粋）

（代議員の定数）

第6条 代議員の定数は、理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の2倍とする。

（社員の出席）

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

3 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

4 社員総会に出席する者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

(1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること

(2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること

(3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること

(4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面により、その団体から指定を受けた者であること

5 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

法人運営基本規則（抜粋）

第8章 学協会長会議

（任期等）

第15条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

報告事項 法人運営基本規則第 10 条 2（再入会時の未納会費について）変更の検討状況

日本地球惑星科学連合第 6 回理事会 （平成 28 年 3 月 10 日開催）

議事録より

報告事項

（5）古村孝志理事（総務担当）職務報告（抜粋）

年会費関連規則の運用上の問題点について古村理事より報告があり、今後、検討することとした。

法人運営基本規則（抜粋）

（会費滞納に対する処分）

第10条 会費を滞納した会員については、次に掲げる各号の処置をとることができる。

- （1）登録料等を非会員扱いとすること。
- （2）ニュース，雑誌への投稿を制限すること。

2 本法人に再入会する者で、過去に未納会費がある場合は、これを納めなければならない。

第1号議案 平成27年度（公益社団法人第5期）決算承認の件

貸借対照表

平成28年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	86,437,441	67,825,016	18,612,425
未成金	13,130,694	12,219,395	911,299
預事業	3,064,693	3,381,041	-316,348
前払	282,742	208,600	74,142
流動資産合計	102,915,570	83,634,052	24,281,518
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金	0	3,000,000	-3,000,000
国際化推進準備資金	2,300,000	5,100,000	-2,800,000
地球惑星科学振興西田賞	5,000,000	0	5,000,000
特定資産合計	7,300,000	8,100,000	-800,000
(3) その他固定資産			
什器備品	163,133	197,991	-34,858
ソフトウェア	13,260,896	6,378,320	6,882,576
保証金	661,650	538,200	123,450
その他固定資産合計	14,085,679	7,114,511	6,971,168
固定資産合計	21,385,679	20,214,511	1,171,168
資産合計	129,301,249	103,848,563	25,452,686
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,954,228	8,239,950	-6,285,722
未成金	3,104,513	2,714,506	390,007
未成事業	33,243,824	11,140,500	22,103,324
前受	5,306,000	2,886,000	2,420,000
預り金	210,475	1,340,100	-1,129,625
仮受金	2,582,040	2,389,133	192,907
未払消費税等	1,744,200	1,642,900	47,500
流動負債合計	48,145,280	30,353,089	17,738,391
負債合計	48,145,280	30,353,089	17,738,391
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	7,305,216	3,143,476	4,161,740
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)	(0)	(5,000,000)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	73,850,753	70,351,998	3,552,555
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)	(5,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,300,000)	(0)	(2,300,000)
正味財産合計	81,155,969	73,495,474	7,714,295
負債及び正味財産合計	129,301,249	103,848,563	25,452,686

正味財産増減計算書

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目		当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産受取利息		1,250	1,250	0
特定資産受取利息		1,250	1,250	0
受当事業年度収益		3,500	4,490	-990
学術大会参加料収入		3,500	4,490	-990
大団体展覧会収入		13,160,000	11,581,000	1,579,000
学術大会参加料収入		13,160,000	11,581,000	1,579,000
大団体展覧会収入		103,923,270	96,685,200	7,238,070
学術大会参加料収入		103,415,770	96,385,200	7,030,570
大団体展覧会収入		65,316,000	64,149,000	1,167,000
学術大会参加料収入		14,354,000	13,346,000	1,008,000
大団体展覧会収入		18,300,000	13,400,000	4,900,000
学術大会参加料収入		770,000	910,000	-140,000
大団体展覧会収入		1,160,000	1,160,000	0
学術大会参加料収入		70,000	60,000	10,000
大団体展覧会収入		1,941,750	1,776,000	165,750
学術大会参加料収入		505,920	295,400	210,520
大団体展覧会収入		300,000	310,000	-10,000
学術大会参加料収入		50,000	4,000	46,000
大団体展覧会収入		648,100	974,800	-326,700
学術大会参加料収入		507,500	300,000	207,500
大団体展覧会収入		507,500	300,000	207,500
学術大会参加料収入		35,238,260	36,038,260	-800,000
大団体展覧会収入		600,000	0	600,000
学術大会参加料収入		0	36,038,260	-36,038,260
大団体展覧会収入		34,638,260	0	34,638,260
学術大会参加料収入		747,000	5,002,000	-4,255,000
大団体展覧会収入		0	5,000,000	-5,000,000
学術大会参加料収入		747,000	2,000	745,000
大団体展覧会収入		108,399	14,061	96,170
学術大会参加料収入		15,368	14,057	1,311
大団体展覧会収入		93,031	4	93,027
経常収益計		153,181,679	149,326,261	3,855,418
(2) 経常費用				
給法臨		141,183,723	155,230,094	-14,046,371
ホーの他		23,831,930	21,646,027	2,185,903
会旅		2,529,734	2,416,534	113,200
通交		4,833,551	4,345,125	488,426
通減消		400,000	320,000	80,000
消修印		4,433,551	4,025,125	408,426
刷グ		3,579,585	2,084,420	1,495,165
ラタ		14,413,146	19,854,423	-5,441,277
一		1,451,897	1,196,479	255,418
の		12,961,249	18,657,944	-5,696,695
展借		2,477,352	2,919,516	-442,164
賃賃		3,602,158	4,358,694	-756,536
賃賃		170,046	118,169	51,877
賃賃		3,904,349	4,512,512	-608,163
賃賃		1,693,440	0	1,693,440
賃賃		12,362,422	13,252,541	-890,119
賃賃		637,200	637,200	0
賃賃		2,160,108	2,283,444	-123,336
賃賃		97,530	173,125	-75,595
賃賃		4,294,080	3,584,520	709,560
賃賃		4,573,617	3,530,096	1,043,521
賃賃		599,887	3,044,156	-2,444,269
賃賃		666,342	427,447	238,895
賃賃		30,990,378	40,817,952	-9,827,574
賃賃		3,629,628	2,715,625	914,003
賃賃		220,684	179,092	41,592
賃賃		19,995,638	27,683,640	-7,688,002
賃賃		7,030,878	10,171,866	-3,140,988
賃賃		113,550	67,729	45,821
賃賃		3,352,541	3,254,763	97,778
賃賃		1,474,448	1,638,034	-163,586
賃賃		2,792,600	2,166,141	626,459
賃賃		4,129,196	3,497,038	632,158
賃賃		3,360,000	819,000	2,541,000
賃賃		15,727,136	15,665,274	61,862
賃賃		10,308,600	8,634,878	1,673,722
賃賃		5,418,536	7,030,396	-1,611,860
賃賃		322,558	547,527	-224,969
賃賃		29,780	47,112	-17,332
賃賃		4,941,031	5,841,845	-900,814
賃賃		0	5,000,000	-5,000,000
賃賃		8,499,201	10,471,237	-1,972,036
賃賃		3,515,315	6,264,637	-2,749,322
賃賃		0	354,899	-354,899
賃賃		3,720	1,004	2,716
賃賃		1,823,454	977,082	846,372
賃賃		225,961	271,629	-45,668
賃賃		1,597,493	705,453	892,040
賃賃		124,530	109,389	15,141
賃賃		14,687	44,823	-30,136
賃賃		170,186	300,441	-130,255
賃賃		158,220	11,664	146,556
賃賃		765,546	720,619	44,927
賃賃		678,576	645,725	32,851
賃賃		86,970	65,834	21,136
賃賃		0	9,060	-9,060
賃賃		1,155,600	1,188,000	-32,400
賃賃		106,300	108,891	-2,591
賃賃		561,984	348,837	213,147
賃賃		0	20,520	-20,520
賃賃		0	20,520	-20,520
賃賃		99,659	20,431	79,228
経常費用計		149,682,924	165,701,331	-16,018,407
評価損益等調整前当期経常増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
評価損益等計		0	0	0
当期経常増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計		0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計		0	0	0
当期経常外増減額		0	0	0
当期一般正味財産増減額		3,498,755	-16,375,070	19,873,825
一般正味財産期首残高		70,351,998	86,727,068	-16,375,070
一般正味財産期末残高		73,850,753	70,351,998	3,498,755
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等		33,800,000	35,200,000	-1,400,000
受取補助金等		5,000,000	5,000,000	0
一般正味財産への振替額		-34,638,260	-41,038,260	6,400,000
当期指定正味財産増減額		4,161,740	-838,260	5,000,000
指定正味財産期首残高		3,143,476	3,981,736	-838,260
指定正味財産期末残高		7,305,216	3,143,476	4,161,740
III 正味財産期末残高		81,155,969	73,495,474	7,660,495

正味財産増減計算書内訳表

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業		合 計
	学術振興事業	法人会計	
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産の受取利息	1,250	0	1,250
特定資産の受取利息	1,250	0	1,250
受当事業の受取利息	3,500	0	3,500
受当事業の受取利息	3,500	0	3,500
受当事業の受取利息	6,580,000	6,580,000	13,160,000
受当事業の受取利息	6,580,000	6,580,000	13,160,000
受当事業の受取利息	101,963,790	1,959,480	103,923,270
受当事業の受取利息	101,456,290	1,959,480	103,415,770
受当事業の受取利息	63,356,520	1,959,480	65,316,000
受当事業の受取利息	14,354,000	0	14,354,000
受当事業の受取利息	18,300,000	0	18,300,000
受当事業の受取利息	770,000	0	770,000
受当事業の受取利息	1,160,000	0	1,160,000
受当事業の受取利息	70,000	0	70,000
受当事業の受取利息	1,941,750	0	1,941,750
受当事業の受取利息	505,920	0	505,920
受当事業の受取利息	300,000	0	300,000
受当事業の受取利息	50,000	0	50,000
受当事業の受取利息	648,100	0	648,100
受当事業の受取利息	507,500	0	507,500
受当事業の受取利息	507,500	0	507,500
受当事業の受取利息	35,238,260	0	35,238,260
受当事業の受取利息	600,000	0	600,000
受当事業の受取利息	34,638,260	0	34,638,260
受当事業の受取利息	747,000	0	747,000
受当事業の受取利息	747,000	0	747,000
受当事業の受取利息	94,236	14,163	110,231
受当事業の受取利息	1,206	14,162	15,368
受当事業の受取利息	93,030	1	93,031
経常収益計	144,628,036	8,553,643	153,181,679
(2) 経常費用			
給付金	141,183,723	0	14,183,723
給付金	23,831,930	0	23,831,930
給付金	2,529,734	0	2,529,734
給付金	4,833,551	0	4,833,551
給付金	400,000	0	400,000
給付金	4,433,551	0	4,433,551
給付金	3,579,585	0	3,579,585
給付金	14,413,146	0	14,089,175
給付金	1,451,897	0	1,451,897
給付金	12,961,249	0	12,637,278
給付金	2,477,352	0	2,477,352
給付金	3,602,158	0	3,602,158
給付金	170,046	0	170,046
給付金	3,904,349	0	3,904,349
給付金	1,693,440	0	1,693,440
給付金	12,362,422	0	12,362,422
給付金	637,200	0	637,200
給付金	2,160,108	0	2,160,108
給付金	97,530	0	97,530
給付金	4,294,080	0	4,294,080
給付金	4,573,617	0	4,573,617
給付金	599,887	0	599,887
給付金	666,342	0	666,342
給付金	30,990,378	0	30,990,378
給付金	3,629,628	0	3,629,628
給付金	220,684	0	220,684
給付金	19,995,638	0	19,995,638
給付金	7,030,878	0	7,030,878
給付金	113,550	0	113,550
給付金	3,352,541	0	3,352,541
給付金	1,474,448	0	1,474,448
給付金	2,792,600	0	2,792,600
給付金	4,129,196	0	4,129,196
給付金	3,360,000	0	3,360,000
給付金	15,727,136	0	15,727,136
給付金	10,308,600	0	10,308,600
給付金	5,418,536	0	5,418,536
給付金	322,558	0	322,558
給付金	29,780	0	29,780
給付金	4,941,031	0	4,941,031
給付金	0	8,499,201	8,499,201
給付金	0	3,515,315	3,515,315
給付金	0	3,720	3,720
給付金	0	1,823,454	1,823,454
給付金	0	225,961	225,961
給付金	0	1,597,493	1,597,493
給付金	0	124,530	124,530
給付金	0	14,687	14,687
給付金	0	170,186	170,186
給付金	0	158,220	158,220
給付金	0	765,546	765,546
給付金	0	678,576	678,576
給付金	0	86,970	86,970
給付金	0	1,155,600	1,155,600
給付金	0	106,300	106,300
給付金	0	561,984	561,984
給付金	0	99,659	99,659
経常費用計	141,183,723	8,499,201	149,682,924
評価損益等調整前当期経常増減額	3,444,313	54,442	3,498,755
評価損益等調整	0	0	0
当期経常増減額	3,444,313	54,442	3,498,755
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額			3,498,755
一般正味財産期首残高			70,351,998
一般正味財産期末残高			73,850,753
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			33,800,000
受取補助金等			5,000,000
一般正味財産への振替額			-34,638,260
当期指定正味財産増減額			4,161,740
指定正味財産期首残高			3,143,476
指定正味財産期末残高			7,305,216
III 正味財産期末残高			81,155,969

財務諸表に対する注記及び附属明細書

平成28年3月31日現在

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法

什器備品 3年間の均等償却。
ソフトウェア 定額法、

(4) 引当金の計上基準

該当なし

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

該当なし

(6) 消費税等の会計処理

税込方式によっている

3. 会計方針の変更

該当なし

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	5,000,000	0	0	5,000,000
基本財産計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金	3,000,000	0	3,000,000	0
国際化推進準備資金	5,100,000	0	2,800,000	2,300,000
地球惑星科学振興西田賞	0	5,000,000	0	5,000,000
特定資産資産計	8,100,000	5,000,000	5,800,000	7,300,000
合 計	13,100,000	5,000,000	5,800,000	12,300,000

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	5,000,000		(5,000,000)	(0)
基本財産計	5,000,000	0	(5,000,000)	(0)
特定資産				
国際化推進準備資金	2,300,000		(2,300,000)	(0)
地球惑星科学振興西田賞	5,000,000	(5,000,000)	(0)	(0)
特定資産計	7,300,000	(5,000,000)	(2,300,000)	(0)
合 計	12,300,000	(5,000,000)	(7,300,000)	(0)

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当 期 末 残 高
什 器 備 品	828,628	665,495	163,133
ソ フ ト ウ ェ ア	30,283,987	17,023,081	13,260,896
合 計	31,112,615	17,688,576	13,424,029

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
該当なし

9. 保証債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶々
該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照上の記載区分
科学研究費	日本学術会議	3,143,476	33,800,000	34,638,260	2,305,216	指定正味財産
地球惑星科学振興西田賞	西田篤弘	0	5,000,000	0	5,000,000	指定正味財産

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

受取補助金使用による振替額	34,638,260
---------------	------------

14. 関連当事者との取引の内容
該当なし

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引
該当なし

16. 重要な後発事象
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記5.に記載しており、内容の記載を省略する

2. 引当金の明細

該当なし

財産目録

平成28年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	44,084
	預金	当座預金 郵貯振替口座	寄附金口座として	698,118
		普通預金	運転資金として	85,695,239
		三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	41,916,224
		りそな銀行本郷	運転資金として	10,006,228
		ゆうちょ銀行	運転資金として	8,861,576
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	6,081,576
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	4,251
		千葉銀行東京営業部	運転資金として	11,498,193
		三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	2,325,044
		科研費		
		三菱東京UFJ銀行本郷支店		5,002,147
	未成事業支出金 学術振興事業		学術振興事業費用の前払分	13,130,694
	預け金	スプリンガー	PEPS 印刷代	3,064,693
	前払費用	学会センター	事務所賃借料の前払分	282,742
流動資産合計				102,915,570
(固定資産)	基本財産			
	定期預金	定期預金 みずほ銀行 本郷支店	公益目的保有財産である	5,000,000
	特定資産			
	国際化推進準備資金	定期預金 三菱東京UFJ銀行		2,300,000
	地球惑星科学振興西田賞	普通預金 三菱東京UFJ銀行		5,000,000
	その他固定資産			
	什器備品		公益目的保有財産である	163,133
	ソフトウェア		公益目的保有財産である	13,260,896
	保証金			
	学会センタービル		事務所の保証金	661,650
固定資産合計				26,385,679
資産合計				129,301,249
(流動負債)	未払金		経費支払いの未払い分	1,954,228
	未払費用			3,104,513
	給料手当		給料未払分	2,710,181
	通勤手当		通勤費未払分	175,784
	健・厚保険料		健康保険・厚生年金保険料未払	218,548
	未成事業受入金			
	学術振興事業		学術振興事業収入前受分	33,243,824
	前受会費		会費収入前受分	5,306,000
	預り金			210,475
	給与源泉税		給与源泉税の預り分	28,918
	報酬源泉税		報酬源泉税の預り分	47,985
	社会保険料			102,192
	その他			31,380
	仮受金			2,582,040
			NASA 2016年大会出展設備費	2,566,040
			重複入金分	16,000
	未払消費税等			1,744,200
流動負債合計				48,145,280
負債合計				48,145,280
正味財産				81,155,969

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 鈴木 善和



私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 松浦 充宏



私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 28 年 4 月 27 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）津 田 敏 隆 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 北 里



私監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 5 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

第 2 号議案 役員（理事、監事）選任の件

役員候補者推薦委員会名簿

氏名	所属	
津田敏隆	（京 都 大 学）	連合会長
日比谷紀之	（東 京 大 学）	学協会長会議議長
高橋幸弘	（北 海 道 大 学）	セクションプレジデント（宇宙惑星科学）
蒲生俊敬	（東 京 大 学）	セクションプレジデント（大気水圏科学）
春山成子	（三 重 大 学）	セクションプレジデント（地球人間圏科学）
大谷栄治	（東 北 大 学）	セクションプレジデント（固体地球科学）
遠藤一佳	（東 京 大 学）	セクションプレジデント（地球生命科学）

任期：平成 28 年度定時社員総会終結時まで

理事候補者選挙実施日程

2015 年 12 月 14 日 理事候補者選挙公示

12 月 21 日 候補者受付開始

2016 年 1 月 8 日 候補者受付締切

（候補者 27 名：自薦他薦合計）

1 月 29 日 投票開始

2 月 15 日 投票締切

（投票者数 90 名）

2 月 19 日 選挙管理委員会による開票、役員候補者推薦委員会へ結果報告

2 月 29 日 役員候補者推薦委員会開催

3 月 7 日 役員候補者公開

1. 開催日時：2016年2月29日（金）午後1時30分－4時00分
2. 開催場所：連合事務局会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）
3. 出席委員：会長（議長）津田 敏隆

学協会長会議議長 日比谷 紀之

次期セクションプレジデント（任期：2016年6月から2018年5月）

宇宙惑星科学 高橋 幸弘

大気水圏科学 蒲生 俊敬

地球人間圏科学 春山 成子

固体地球科学 大谷 栄治

地球生命科学 遠藤 一佳

（敬称略）

4. 議事

開始予定時刻となったため、議長が議長席に着き、会議の開始を宣言した。以下議事に入った。

議事1. 関連規則の確認

定款、役員候補者推薦委員会規則、理事候補者選挙規則および理事候補者実施細則等、関連規則を確認した。

議事2. 理事候補の選出

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者を選出した。

選挙結果によれば3名の候補者が得票同数により上位20位となるが、理事候補者選挙実施細則第6条に基づいて年齢の若い者を上位とし順位が確定されることを確認した。

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第五条十一および定款第16条に定められた、他の同一の団体の理事又は使用人である者についての確認を行った。選挙結果上位20名のうち東京大学所属の候補は7名であるが、事前に提出された情報によりそのうち1名は定時社員総会推薦時には所属を変更の予定であるため、抵触しないことを確認した。

候補者の登録区分についても確認し、次の通り大きな偏りのないことを確認した。（候補者上位20名登録区分：宇宙惑星科学4名、大気水圏科学4名、固体地球科学6名、地球人間圏3名、地球生命科学2名、地球惑星学総合1名）

候補者のジェンダーについても確認し、現在の理事20名のうち女性が1名であるのに対し、候補者20名のうち女性が3名含まれていることを確認した。

以上のように選挙結果の上位20名を候補者とするに問題がないことを確認した。したがって、別紙資料の通り、理事候補者選挙結果の上位20名を理事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議事 3. 監事候補の選出

継続性を考え、現監事を中心に推薦することとした。ただし松浦監事は事前に継続就任を辞退する連絡があったため、新規に 1 名を選考した。過去の役員経験者、セクションプレジデント経験者等から学識・経験を踏まえ複数名を検討したが、検討の結果氷見山幸夫氏を推薦することを全会一致で承認した。したがって、継続候補 2 名と合わせて 3 名を監事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 4 時 00 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成した。

以上

参考：

理事候補者選挙実施細則

(順位の決定)

第 6 条 選挙の結果、得票の多い者から順位を付け、得票同数の場合は、年齢の若い者を上位とする。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款

(役員の選任) 第 16 条

2 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令第 5 条各号に掲げられた者をいう。)である理事の合計数は、理事の総数の 3 分の 1 を超えてはならない。監事についても、同様とする。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(公益認定の基準)

第五条十一 他の同一の団体(公益法人又はこれに準ずるものとして政令で定めるものを除く。)の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして政令で定める者である理事の合計数が理事の総数の三分の一を超えないものであること。監事についても、同様とする。

平成27年度 理事候補者選挙 投票結果

順位	投票数	氏名	所属機関名
1	63	田近 英一	東京大学
2	61	津田 敏隆	京都大学
3	58	木村 学	東京大学
3	58	中村 正人	宇宙航空開発機構
5	55	ウォリス サイモン	名古屋大学
6	54	原田 尚美	海洋研究開発機構
7	53	川幡 穂高	東京大学
7	53	浜野 洋三	海洋研究開発機構
9	51	古村 孝志	東京大学
10	49	日比谷 紀之	東京大学
11	39	北 和之	茨城大学
12	38	井出 哲	東京大学
13	38	小口 千明	埼玉大学
14	36	西 弘嗣	東北大学
15	34	倉本 圭	北海道大学
16	32	小口 高	東京大学
16	32	瀧上 豊	関東学園大学
18	31	奥村 晃史	広島大学
19	30	道林 克禎	静岡大学
20	30	中村 昭子	神戸大学
21	30	畠山 正恒	聖光学院中学校高等学校
22	28	佐藤 正樹	東京大学
23	23	小田 啓邦	産業技術総合研究所
24	22	近藤 昭彦	千葉大学
25	18	北村 晃寿	静岡大学
25	18	安成 哲平	北海道大学
27	11	飯田 佑輔	宇宙航空開発機構

理事候補者推薦一覧

氏名	所属機関名	登録区分	立候補時抱負(推薦の場合は推薦文)
田近 英一	東京大学	宇宙惑星科学	地球惑星科学の広報普及活動を通じ、社会からの理解と関心を深めると同時に、次世代の育成につなげることを、これもJpGUの重要な使命の一つです。地球惑星科学コミュニティ全体の発展のため、より一層尽力する所存です。
津田 敏隆	京都大学	大気水圏科学	日本地球惑星科学連合が、国内の関連学協会と共存共栄を図りつつ、欧米・アジア・オセアニア・アフリカの研究コミュニティと連携して国際的視野で地球惑星科学の研究とアウトリーチ活動を推進することに貢献したい。
木村 学	東京海洋大学	固体地球科学	来る2年間は、初めてのAGUとの連携大会を成功させ、日本の地惑コミュニティの国際化を飛躍させる時となります。アジアとの交流も同時に一層進め、未来を切り拓くために全力で臨む所存です。
中村 正人	宇宙航空開発機構	宇宙惑星科学	地球惑星科学は地球科学において生活と自然災害の関連が、惑星科学において国家主義の中でどの様に良いサイエンスをするかが問われています。理事としてこれらの事案に対して発言し、対処し、結果を出していきます。
ウォリス サイモン	名古屋大学	固体地球科学	JpGUの国際戦略の実施と更なる発展に貢献したい。取り分け、JpGUと協定を結んでいる他の学術組織との連携の強化や2017年に予定しているJpGU-AGUジョイントミーティングの成功を重視したい。
原田 尚美	海洋研究開発機構	大気水圏科学	2014-2015年の理事ならびに男女参画委員会(新:ダイバーシティ推進委員会)の役を務め、ようやく運営がわかりかけてきたところです。理事会の多様性を高めるためにも立候補させていただきました。
川幡 穂高	東京大学	地球生命科学	地球惑星科学における世界の一極を担えるOpen Access電子ジャーナルPEPSの確立、特にAGUとのジョイントも含めた年会の充実を通じてこの分野の新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。
浜野 洋三	海洋研究開発機構	固体地球科学	日本の地球惑星科学コミュニティの活性化に向けて、毎年の活発な連合大会の開催と連合の将来プランを実現できる、堅固な事務局体制を作り上げることに貢献したいと思います。
古村 孝志	東京大学	固体地球科学	総務委員会活動を通して日本地球惑星科学連合の組織を一層強化し、国内関連学協会及び世界コミュニティとの連携の下、地球惑星科学の発展に貢献したい。
日比谷 紀之	東京大学	大気水圏科学	日本海洋学会長としてJpGUとの関係をさらに強化していくとともに、AOGSセッションプレジデントやIAPSO執行委員などの国際経験を活かすことでJpGUのさらなる発展に貢献していきたいと思います。
北 和之	茨城大学	大気水圏科学	これまで連合大会運営および財務を中心に地球惑星科学連合の運営に携わってきました。これから、さらに国際的に活動を広げ、皆さんの研究活動の場として重要となっていく時期にあたり微力を尽くしたいと思います。
井出 哲	東京大学	固体地球科学	井出博士は、低周波地震の機構解明など、世界の地震学・固体地球科学をリードする業績を有するとともに、多くの学生の育成を通じてコミュニティの発展に著しく貢献しており、若手理事として推薦するに相応しい。(推薦者1:木村 学 推薦者2:日比谷 紀之)

小口 千明	埼玉大学	地球人間圏科学	小口千明代議員は、男女共同参画に関する取り組みに力を注ぎ、2012年から2013年まで JpGUの男女共同参画委員会の委員長を務めてこられました。その実績を活かし、理事会運営でも活躍いただける人材であることから推薦いたしました。（推薦者1：高橋 幸弘 推薦者2：原田 尚美）
西 弘嗣	東北大学	地球生命科学	地球惑星科学連合ではAGUとの合同会議など、新しい国際化の活動を推進しています。このような連合のさらなる発展に微力ながら貢献できればと思います。
倉本 圭	北海道大学	宇宙惑星科学	研究教育ネットワークの形成を通じた宇宙惑星科学の展開に貢献したいと思います。
小口 高	東京大学	地球人間圏科学	地形学と地理情報科学の研究者として、日本地形学連合では代議員、GISセッションの開催、連合大会のスペシャルレクチャーなどを担当してきました。次期は理事としても連合に貢献したいと希望しております。
瀧上 豊	関東学園大学	地球惑星科学総合	連合の事業の1つである地学・地理オリンピック関連の教育事業および教育検討委員会委員として次期学習指導要領における地学教育の策定や国際的な地球科学教育の推進に貢献したいと思います。
奥村 晃史	広島大学	地球人間圏科学	地球人口の激増と生活文化の向上により、人間が食料や資源など自然の恵みを断たれるリスクや、自然災害・環境変動が生命や財産を奪うリスクは増し続けている。地球惑星科学の叡智を人類の生存と安全に一層活かしていくため連合を活性化していきたい。
道林 克禎	静岡大学	固体地球科学	JpGUがさらに発展していくために努力します。広報普及担当として、特にJpGU大会における一般セッションを通じたアウトリーチ活動によるJpGUのさらなる認知拡大を目指していきます。
中村 昭子	神戸大学	宇宙惑星科学	JpGUの活動を通じて、地球惑星科学分野の研究活動の新しい拡がりや深化、それを担う次世代の活動の基盤の整備や維持のために微力ながら貢献できればと考えます。

監事候補者推薦一覧(50音順)

北里 洋	東京海洋大学
鈴木 善和	プラタナス法律事務所
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授

第3号議案 熊本・大分地震災害に関する声明

熊本・大分地震災害に関する声明（案）

公益社団法人日本地球惑星科学連合

2106年4月14日の熊本地震に端を発する一連の災害で犠牲となられた多くの方々にお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々が一日も早く安寧な生活を取り戻し、復興が進むことを祈念します。

日本地球惑星科学連合（JpGU）では、地球惑星科学に関する研究・教育を協働により総合的に推進し、今回の熊本地震の発生原因と被害の生成要因等について科学的理解を深め、災害軽減に貢献すべく一層努力いたします。

熊本県および大分県には、阿蘇火山をはじめとする地球惑星科学に関わりの深いフィールドや、大学及び研究施設が数多くあり、地球惑星科学の進展ならびに若手人材育成、そして地域社会の防災・減災にも大きく貢献してきました。今回の地震・地盤災害により被災したこれらの施設が早急に復旧し、従前からの研究・教育機能が早急に再構築されることを希望します。